

學齡簿整理規程

- 第一條 學齡簿ハ半截シタル用紙ニ依リ兒童一人ニツキ一葉ヲ充ツヘシ
- 第二條 學齡簿ハ一年毎ニ別冊(男女ノ部ヲ區別ス)トナスヘシ但シ更ニ之ヲ男女別冊トナスコトヲ得
- 第三條 小學校令施行規則第八十一條第三項ニ依リ學齡簿登載ノ兒童ヲ抹消スルニハ其ノ氏名ノ上ニ縦ニ雙朱線ヲ畫シ其ノ事由ヲ備考欄内ニ記入スヘシ  
抹消サレタル兒童ハ便宜之ヲ冊尾ニ移スコトヲ得
- 學齡簿記載ノ事項ヲ加除訂正スルニ當リ既ニ記載セル事項ヲ抹消スルニハ第一項ノ例ニ準スヘシ
- 第四條 學齡簿中就學義務ノ免除又ハ尋常小學校ノ教科ヲ了リタル兒童ニ就キテハ相當欄内ニ記入ノ外尙欄外上部ニ「**免除**」又ハ「**卒業**」ト朱記スヘシ  
就學猶豫ノ兒童ニ就キテハ相當欄内ニ記入ノ外尙猶豫期間ハ「**猶豫**」ト朱書セル紙箋ヲ兒童氏名ノ上ニ貼付シ置クヘシ
- 學齡ヲ終リタル兒童ニ就キテハ全紙面ヘ斜ニ朱線ヲ畫スヘシ
- 第五條 學齡簿編綴ノ順序ハ一定ノ標準ヲ定メ每冊表紙ノ見返ニ記載シ置クヘシ

- 第六條 學齡簿ニハ每冊ノ始ニ別表ニ依リ作りタル學齡兒童每期現在種別表ヲ添付シ每期經過後五日以内ニ其ノ計數ヲ記入スヘシ
- 第七條 學齡簿ハ少クトモ毎年一回(二月ニ於テ)監督官廳ニ差出シ其ノ檢閲ヲ受クヘシ但シ其ノ日割ハ監督官廳ノ定ムル所ニ依ルヘシ  
郡長ハ定期檢閲ヲ結了シタルトキハ遲滯ナク其ノ成績ヲ縣知事ニ報告スヘシ

附 則

第八條 従前ノ規定ニ依リ作りタル學齡簿ハ本年十一月三十日限り本規程ニ從ヒ之ヲ改綴スヘシ

學 齡 兒 童 每 期 現 在 種 別 表 (男又ハ女)

明治(三十三年)十二月登載ノ兒童數(未ダ就學ノ初期ニ違セ) 人

内  
 五月ヨリ間ニ生レタル者 人  
 四月ヨリ間ニ生レタル者 人

期 別	種 別	卒 業	就 學 期 間 ニ 在 ル 者				總 計
			就 學	免 除	猶 豫	其 他	
明治(三十四)年四月							
明治(三十四)年十二月							







第一條 小學校令施行規則第七十四條ニ依リ尋常小學校ノ授業料徴收ニ關シ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ三箇年以内ニ於テ期限ヲ定メ直接監督官廳ヲ經由シテ申請書ヲ差出スヘシ

一 事由

二 授業料金額

三 年限

四 市町村費現年度歳入出豫算明細書及前年度決算明細書、但シ決算未済ナルトキハ其ノ豫算明細書

五 財産及之ヨリ生スル收入

六 負債及之ヨリ生スル負擔

七 産業上經濟上特殊ノ事情

前項ノ申請ニ對シ郡長ハ詳細ニ其意見ヲ副申スヘシ

第二條 小學校令施行規則第七十五條ニ依リ市ニ於テ高等小學校ノ授業料ノ金額ニ關シ認可ヲ受ケントスルトキハ前條第一項ニ準シテ申請書ヲ差出スヘシ但シ第三號ヲ具スルヲ要セス

小學校令施行規則第七十五條ニ依リ郡長ニ於テ高等小學校ノ授業料ノ金額ヲ認可シタルトキ

ハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第三條 小學校令施行規則第七十七條ニ依リ小學校補習科ノ授業料ヲ定メタルトキハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

●縣令第九十八號 (明治三十三年十二月十日)

教育資金使用規則左ノ通相定ム

教育資金使用規則

第一條 教育資金ハ左記各號ニ該當スルモノ、内校舍校地ノ設備最不備ニシテ改築新築等ヲ急用ト認ムルモノヨリ順次貸付スルモノトス

一 最近二箇年度ノ決算及當該年度ノ豫算ニ於テ小學校教育ニ屬スル經常費支出額其市町村ノ經常費支出總額三分ノ一以上ナルモン但特別ノ事情アルモノハ本文ニ依ラサルコトヲ得

二 市町村ノ資力學校設備ニ要スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルモノ

第二條 市町村ハ其市町村内ノ區ノ負擔ニ屬スル學校設備費ニ就キ教育資金ノ貸付ヲ申請スルコトヲ得

第三條 尋常高等小學校ノ設備費ニ對シ教育資金ヲ貸付スルトキハ其ノ總費額ノ五分ノ三ヲ以テ尋常小學校ノ設備費ト見做ス



第四條 教育資金ノ貸付額ハ五拾圓ヲ以テ單位トス

第五條 教育資金ノ償還期限ハ特別ノ事情アルモノ、外五ケ年以内トス

第五條ノ二 教育資金ノ貸付ヲ受ケタル事業ヲ其ノ年度内ニ着手セス若ハ中止シタルトキハ期限ニ拘ハラズ臨時ニ貸付金ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ(三十五年縣令第六十三號ヲ以テ追加)

第六條 教育資金ノ貸付ヲ申請セントスルモノハ遅クトモ當該年度ノ七月末日ニマテニ市ハ直ニ町村ハ所轄郡役所ヲ經由シテ申請書ヲ差出スヘシ

第七條 教育資金ノ貸付ヲ申請スルニハ左記ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 貸付申請事由書
- 一 校地校舍ノ建築増築等ニ關スル設計書圖面(平面圖)
- 一 工事ノ順序及完成時期調書
- 一 最近二ケ年度ノ決算及當該年度ノ豫算ニ於ケル其市町村經常費支出總額及小學校教育ニ屬スル經常費支出總額調書
- 一 償還方法調書

第八條 貸付シタル教育資金ノ利子ハ貸付ノ翌月ヨリ返納ノ月マテ月割ヲ以テ之ヲ計算シ毎年六月十二月ノ二期ニ於テ之ヲ納付スヘシ但全部償還ノ場合ハ之ト全時ニ利子ヲ納付スルモノトス

第九條 本則施行上町村組合及町村學校組合ハ之ヲ一町村ト見做ス

第十條 教育基金令第八條ニ依リ左ニ掲クル費用ニ充ツル爲メ教育資金ノ一部ヲ支出スルコトアルヘシ

- 一 市町村立小學校教員獎勵費
  - 一 小學教育ニ關シ特ニ勤勞アリタル市町村吏員獎勵費
  - 一 其ノ他普通教育上必要ナル事項(三十五年縣令第六十三號ヲ以テ追加)
- 第十一條 第六條ニ規定セル申請書差出期限ハ明治三十三年度ニ限り明治三十四年一月三十一日マテトス

●三第三二六七號 (明治三十五年六月十二日)

各郡長 內務部長通牒

明治三十三年<sup>月十二</sup>縣令第九十八號教育資金使用規則第七條ニ依リ提出スヘキ書面中第二號乃至第四號ノ書面ハ省略セシムルモ差問ヘ無之候ニ付此ノ場合ニ於テハ當該事項ハ貴官ニ於テ取調ノ上其ノ要領ヲ副中候様御取計相成度依命此段及通牒候也

●縣令第六號 (明治三十四年一月二十九日)

市町村町村學校組合ノ區長及其代理者並學務委員ニ關スル規則左ノ通り相定ム



市町村町村學校組合ノ區長及其ノ代理者並學務員委員ニ關スル規則

- 第一條 市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ハ市町村長又ハ町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行スヘシ
- 第二條 學務委員就任シタルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ遲滯ナク其資格氏名ヲ監督官廳ニ報告スヘシ
- 第三條 學務委員數名アルトキ各其ノ分擔ヲ定メ若クハ交互ニ事務ヲ執ル等ノコトアル場合ニハ豫メ其手續ヲ定メ監督官廳ニ届出ツヘシ
- 第四條 學務委員ノ事務ヲ扱フニハ市役所町村役場ニ於テスルヲ常例トシ事務ノ繁閑ニ依リ豫メ執務ノ日ヲ定メ置クヘシ
- 第五條 國ノ教育事務補助ニ關スル實費辦償額及報酬額ハ豫メ之ヲ定メ置クヘシ
- 第六條 區長及其ノ代理者並學務委員ノ國ノ教育事務補助ニ關シ必要アルトキハ郡長又ハ市長ハ縣知事ノ認可ヲ受ケ細則ヲ定ムルコトヲ得

附 則

第七條 現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ノ資格氏名ハ明治三十四年二月二十八日限り監督官廳ニ報告スヘシ

第八條 明治二十五年三月縣令第三十一號及同第三十二號ハ之ヲ廢止ス

●甲第三十四號 (明治二十六年十月七日)

郡役所 市役所 町村役場 市町村立小學校

學校沿革誌編製項目並ニ學校沿革誌編製心得左之通相定ム

學校沿革誌編製項目

- 第一 制度
  - 一 一般教育制度ノ概要
  - 二 學校制定ノ諸規程
- 第二 設備
  - 一 學校設置區域
  - 二 學校ノ設廢分合及位置
  - 三 學校ノ名稱資格
  - 四 校舍校地校具及教員住宅ノ概況
- 第三 學校基本財産
  - 一 學校基本財産ノ設廢並支消費却等ノ概況



二 學校基本財産ノ管理方法

第四 校員

- 一 學校職員ノ任免
- 二 學校職員ノ資格及俸給
- 三 學校職員ノ賞罰
- 四 學級ニ對スル職員ノ配置

第五 生徒

- 一 學齡兒童
- 二 就學不就學
- 三 入學及半途退學
- 四 卒業生徒

五 生徒成績ノ概要

六 生徒ノ賞罰

七 學級ノ編制

第六 經濟

一 毎年經費ノ豫算及決算摘要

二 學校基本財産ヨリ生スル利子ノ員數

三 寄附物件

四 授業料

第七 學事關係ノ吏員

一 管理者ノ異動

二 學務委員ノ異動

第八 記事概要

一 尊影及勅語謄本等拜受ニ關スル件

二 町局官吏ノ視學ニ關スル件

三 職員出張等ニ關スル件

四 天災地變其他學校ニ影響ヲ及ホシタル事件

五 其他重要ナル事件

第九 附記

一 學校ノ爲メニ功勞アルモノ、事績



- 二 學校職員ノ履歷
- 三 學校ト家庭ト聯絡ノ情況
- 四 就學勸誘ニ關スル方法

學校沿革誌編製心得

- 一 學校沿革誌ハ其學校創立以來ノ閱歷ヲ明瞭ニシ殊ニ學校ノ爲メ盡力セシ篤志者又ハ教育ノ爲メ勵精セシ教師ノ事績履歷ハ詳細ニ附記シ其功勞ノ煙滅ニ歸スルノ遺憾ナカラシムヘシ
- 一 學校沿革誌ハ二通ヲ編製シ一通ハ學校ニ於テ一通ハ市町村役場ニ於テ保管スヘシ
- 一 學校沿革誌編製方ハ各項毎ニ多少餘紙ヲ存シ置キ每學年末ニ於テ學務日誌其他關係帳簿等ヨリ抄出シ或ハ管理者學務委員等ニ協議シ其學年間學事ニ係ル較著ノ事績ヲ登錄スヘシ
- 一 學校沿革誌ハ明治二十七年一月三十一日迄ニ編製ヲ了シ其旨市立小學校ニ於テハ市役所ヲ經町村立小學校ニ於テハ町村役場郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

●甲第二十四號 (二十六年七月十六日)

郡役所 市役所 町村役場 市町村立小學校

小學生徒ニ勤儉貯蓄ノ良習慣ヲ養成セシムルタメ市町村立小學校生徒貯金旨意方法綱領左ノ通相定ム

市町村立小學校生徒貯金旨意方法綱領

- 第一 貯金ノ目的ハ小學校生徒ヲシテ勤儉ノ徳ヲ養ヒ貯蓄ノ良習慣ヲ成サシムルニ在リ
  - 第二 前項ノ目的ニ依リ生徒ヲ誘導シテ貯金ヲ爲サシムルヲ要スト雖モ強テ之ヲ行ハシムヘカラス
  - 第三 貯金預ケノ毎月ノ回数及毎回ノ金額ハ各學校ニ於テ適宜其制限ヲ定メ漫ニ貯金額ノ多キヲ競ヒ父兄ヲ苦シムルノ弊ヲ豫防スヘシ
  - 第四 貯金ハ成ルヘク左ノ種類ヨリ得タル金額ノ全部若クハ其一部ナルヲ要ス
    - 一 自己ノ勤勉ニ依テ得タル金額
    - 一 父母親戚等ヨリ與ヘラレタル金額
  - 第五 貯金ハ該校職員中ニ於テ主任者ヲ定メ確實ニ取扱フヘシ
  - 第六 生徒ノ貯金ハ郵便貯金又ハ貯蓄銀行預ケトスヘシ(三十二年甲第二十) (四號ヲ以テ改正)
  - 第七 小學校ニ於テハ貯金臺帳及ヒ其他必要アル書類ヲ備フヘシ
- 生徒各自ノ貯金通帳ハ可成各生徒ニ渡シ置クヘシ但便宜各生徒ニ仮通帳ヲ渡シ貯金通帳ヲ學校ニ保管スルコトヲ得

第八 (三十二年甲第二十) (四號ヲ以テ削除)



第九 貯金ハ左ノ事故理由アルニアラサレハ下戻サ、ルモノトス

一 生徒卒業及退校轉校ノトキ

一 疾病及死亡ノトキ

一 前款ノ外當該學校ニ於テ止ムヲ得サル事故理由アルモノト認ムルトキ

第十 貯金取扱ニ關スル手續等ハ當該學校ニ於テ之ヲ規定シ市立小學校ニ於テハ市役所ヲ經テ縣

廳ニ町村立小學校ニ於テハ町村役場ヲ經テ郡長ニ届出ツヘシ(三十一年甲第百二十四號ヲ以テ改正)

●學第五一四號 (明治二十八年七月十三日)

名 郡 市 長

小學校生徒ヲシテ學校構内若クハ近傍適宜ノ地ヲ撰ヒ或ハ町村有山林原野等適宜地區ヲ劃シ或ハ社寺ノ境内若クハ道傍又ハ海岸等ニ就キ方法ヲ設ケ適當ノ樹木ヲ栽植シ之ヲ愛養保護セシメハ自然其實業ヲ重ニスルノ思想ヲ起シ植樹ノ肝要ナルコトヲ知リ森林ヲ愛護スルノ心ヲ生セシメ又公共心ヲ養ヒ經濟思想ヲ發達シ進テハ學校基本財産ヲ作ルノ一財源トナスコトヲ得ヘク而シテ終ニハ山林荒廢ノ弊ヲ救ヒ早魘ノ害ヲ防クニ至ルヘシ就テハ右栽植ニ關スル方法即土地樹種ノ撰定、苗木仕立又ハ購入方、栽植ノ日時、栽植後ノ手入、保護方法等ニ就テハ別紙參考ノ上本業ニ熟練ナル實業家ノ意見等ヲ探リテ方按テ定メ其施行上ニ關スル方法ハ教育會等ニ於テ調査シ祝祭日等

務メテ紀念トナルヘキ日ヲ撰ヒ栽植セシメ候様計畫シ毎年施行シタル實況ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ報告スヘシ

(參考書)

小學校生徒ヲシテ或ル紀念日ヲ樹栽日ト定メ樹木ヲ栽植セシムルニ當テハ先ツ其目的ニヨリテ之レカ方業等ヲ定メサルヘカラス即チ(甲)單ニ兒童ヲシテ實業的ノ志想ヲ養ハシメ以テ其浮薄ニ流ル、ヲ防キ專ラ着實ニ傾カシムルノ傍ラ植物學ノ妙味ヲ悟リ或ハ愛國愛郷ノ紀念トシ又ハ高尚優美ナル精神ノ快樂ヲ得セシムル等ニ止ムルト(乙)以上目的外ニ學校經濟ノ趣味ヲ加フルノ二種ニ外ナラサルヘシ若シ此舉ニシテ盛ニ行ハル、ニ至レハ間接ニ國家ヲ益スルコト亦莫大ナラン即チ一般人民ニ愛林ノ志想ヲ興サシメ從テ森林ノ災害ヲ減シ反テ之レカ繁殖ヲ見ルニ至ルヘク之ニ因テ彼ノ土砂研止、防風、防砂、水源涵養等ニ對シ其効莫大ナルノミナラス或ハ風致ヲ添ヘ或ハ目標トナリ尙ホ他ニ用材燃料トシテ夥多ノ收額ヲ稔ル等國利民福ヲ増スコト決シテ少々ニアラサルヘシ

今假リニ此甲乙二種ノ目的ヲ併セ達セントスルモノト仮定セハ左ノ事項ニ注意スルヲ要スヘシ  
(一) 植樹資金 一定不動ニ費用ノ出途ヲ定ムルヲ要ス是レ説明スル迄モナシ費用ノ出途ナクハ如何ナル美譽モ之ヲ施行スルコト能ハサルヘク又其出途不動ナラサレハ之ヲ永久不動ニ連續



スルコト能ハサルヘシ而シテ林業經濟ノ最要旨ハ永久保續ニアルノミナラス此紀念日樹栽モ亦其學校ノ存續スルノ間ハ永久保續セシムルノ必要アルハ勿論ナレハナリ

(二)土地ノ撰定 本件ハ費用ノ出途定マレハ第一着手ニ爲サ、ルヘカラス思フニ各地校舍ノ敷地ニサヘ差支ヘツ、アル今日ナレハ之ヲ得ルコト尤モ困難ナラン其目的單ニ甲種ニ過キサレハ幾分カ容易ナラン是レ學校構内、運動場、庭園、路傍等之ヲ撰フニ及ハサレハナリ若シ乙種ノ目的モ併セテ之ヲ得ントスレハ勢ヒ經濟的ニ利用シ得ヘキ土地ナラサルヘカラス之ヲ撰フニ付注意スヘキ要點ハ

イ 面積 ハ相當ノ廣ヲ要ス是レ其地域狹キトキハ直チニ植栽シ終リ永久保續ノ目的ヲ達スルコト能ハサルノミナラス且ツ之ヲ經濟的ニ利用スルコト能ハサレハナリ

ロ 距離 ハ可成學校ニ近キヲ要ス是レ遠ケレハ兒童ヲシテ紀念日ニ赴キテ植栽シ終ルコト能ハサラシムルノミナラス愈遠ケレハ愈其費用ヲ増スハ當然ノ理ニシテ植栽後ハ日常兒童ヲシテ之ヲ巡視愛護セシメ其生長ノ狀況ヲ視テ一ハ學理研究ノ素ヲ爲サシメ一ハ之レカ爲メニ快樂ヲ得セシムル等ノ必要ニ對シテ亦頗ル困難ナレハナリ

ハ 地勢並地上ノ狀況 餘リ危險ナルカ荆棘雜草繁茂スルカ岩石ノ露出甚シキ所等ハ到底兒童ヲシテ執業セシムルコト能ハサルノミナラス又其身體ニ危險ヲ來スコトナキニアラサ

ルヘシ故ニ可成平坦ナル土地ヲ要ス然レトモ平坦ノ地ハ開墾ニ適スルカ故ニ林地ニ使用スルハ不利ナリ(砂地、瘠地ノ如キ絶對的林地ハ其限ニアラス)須ラク充分ノ調査ヲナシ以テ適當ナル場所ヲ撰定スルヲ要ス

ニ 地質 樹木栽培ニハ岩石地ニアラサル以上其樹種ヲ撰メハ假令瘠地ト雖モ生育セサルニアラサルモ可成肥地ヲ可ナリトス是瘠地ハ生長遲緩ナルニ依リ兒童ヲシテ天然發育ノ愉快ヲ感セシムルコト少ナク從テ倦怠ノ念ヲ生セシメ易ク又其收利モ少ナケレハナリ

要スルニ兒童ヲシテ甚シキ困苦ヲ受ケス其業務ヲ以テ一ツノ快樂ト感セシメ且ツ最多利ニ其植栽ノ目的ヲ達セシムルヲ必要トス

(三)樹種ノ撰定 其撰擇ノ要點ハ其土地ニ最適ノモノニシテ尤モ利益アル樹木ナラサルヘカラス即チ甲乙二種ノ目的ヲ併セテ達スルニハ美花、香氣強キ花又莢菓ヲ着クル樹種、蘇針多キ樹種、惡臭アル樹種ノ如キハ可成之ヲ避クルヲ要ス思フニ松、杉、檜、檜、桐、樺、樺、樟等ノ内ニ於テ撰定スルハ大過ナカラシ若シ其撰定ニシテ誤ランカ其樹木ハ生長セサルノミナラス遂ニ全ク枯死シ兒童ヲシテ失望落膽セシメ教師ヲシテ倦怠ノ念ヲ生セシメ徒ラニ勞費ヲ失フニ過キサレヘシ

(四)樹栽日即チ紀念日 可成著シキ特種ノ紀念トスヘキ日ヲ撰フヲ可ナリトスト雖モ之ヲ一定ス



ルコトハ困難ナル場合アルヘシ何トナレハ樹木ヲ植栽スルニハ何レノ時季ニテモ可ナルモノニアラス若シ適當ノ時季ニ植栽セサレハ大概枯死スルヲ通常トスレハナリ故ニ各樹適當ノ時季ヲ其地方ニヨリテ定ムルヲ可ナリトス然レトモ先ツ概シテ春季ハ二月十一日紀元節四月三日神武天皇祭秋季ハ十一月三日天長節等可然乎可成春季ニ定ムルヲ得策トス是レ春季ハ秋季ヨリ概シテ植樹ニ適當ノ時季ナレハナリ

- (五) 苗樹ノ養成 樹種定マレハ之カ苗樹ヲ得ルノ途ヲ講セサルヘカラス可成ハ兒童ヲシテ播種ヲナサシメ其發生ノ上ハ苗木ノ床換、除草、施肥等ヨリ之カ山植ニ適スル迄培養ヲナサシムルコト尤モ必要ナラン此ノ如キ業務ヲ執ラシムレハ兒童ハ各種ノ種實及其發生ノ有様ヲ知り一層愛護ノ念ヲ増シ且ツ土地狭小ニシテ充分植栽ヲナサシムル事能ハサル場合ニ於テモ亦適當ノ業務ヲ得加フルニ希望ノ苗樹ヲ希望ノ時ニ希望ノ所ニ得ルニ至ルヘク其他直接間接ニ前記甲種ノ目的ヲ達スル上ニ於テ莫大ノ利益ヲ見ルヘシ若シ止ムヲ得サル事情ノ爲メ兒童ヲシテ苗樹ヲ養成セシムルコト能ハサル時ハ確實ニシテ經歷アル苗木商ヨリ購入スルノ外ナカラシ
- (六) 植栽ノ方法 ハ樹種地勢地質等ノ如何ニヨリテ多少相違アルニヨリ特ニ注意ヲ要ス又本項ニ付テ研究スヘキ事項ハ苗樹ノ運搬ハ如何ス可カ植栽地ニ於ケル荆棘雜草ヲ清除スル等地拵ハ如何ス可カ植栽スヘキ土地穿堀ハ如何スヘキカ即チ各地種々ノ關係事情ニヨリテ盡ク兒童ヲ

- シテ之ニ當ラシムルカ又ハ一部分ハ別ニ人夫ヲ雇フテ之ニ當ラシムルカ若シ全部兒童ヲシテ之ニ當ラシムルトセハ之ニ要スル種々ノ器具器械等ハ如何スヘキヤ又器具器械ノ平生ニ於ケル保管等ハ果シテ如何スヘキヤ又其植栽ハ個人ヲ以テ一樹又ハ數樹ニ當ラシムルカ又ハ一級一園ヲ以テ一定ノ區域ニ當ラシムルカ又兒童ハ男女並ニ長幼ノ別ヲ問フ必要ナキカ又高等科尋常科若クハ其上級下級等ニ據リテ區別スルノ必要ナキカ又其男女、長幼團級ノ別ニヨリテ樹種並ニ方法ヲ異ニスル必要ナキカ等皆其局ニ當ルモノ、大ニ講究スヘキ要點ナラント信ス又植栽ニ關スル一様ノ方法順序等ニ至リテハ多少林學上ノ趣味ヲ加フルト然ラサルトハ將來ノ發達並ニ利益ノ上ニ著シキ影響ヲ來スニ至ルヘシ
  - (七) 植栽後ノ手入及保護 若シ樹木ヲ植栽シテ其儘之ヲ放置センカ寧ロ植ヘサルノ優レルニ若カサルナリ之ヲ植スルハ易シ之ヲ保護養育シテ大木ト爲ラシムルハ頗ル難シ故ニ豫メ之レカ用意ヲ要スヘキハ勿論ナリ蔓草ノ刈拂ヒ虫害ノ驅除、火災ノ豫防枯死ノ補植等總テ或ル一定ノ程度迄ハ必ス兒童ヲシテ之ニ當ラシムル方尤モ必要ナラン(其必要ナル理由等ハ之ヲ略ス)而シテ若シ兒童ヲシテ之ニ當ラシムルモノトセハ其方法順序等ハ如何スヘキヤ又之ヲ伐採シテ世用ニ供スル迄ノ幾多ノ日子間ニ於ケル保護ノ方法等モ亦大ニ講究スヘキノ點ナラン
- 其他之カ實施ニ對スル監督ノ方法、將來管理ノ方案、記録ノ備付、主副產物ノ採收利用法等豫メ



講究ヲ要スルノ點決シテ僅少ニアラサルヘシ  
 惟フニ一度此樹栽日ノ美譽タルヲ信シ且ツ之ヲ以テ容易ノ事ト見做シ之カ方案等モ考慮セス直ニ  
 以テ實際ニ試ミント欲スルカ如キ豈ニ寒心セザルヘケンヤ前配畧述スルカ如ク之レカ着手容易ニ  
 アラスト雖トモ之ヲ其成功ノ難易ニ比スレハ殆ント同日ノ談ニアラサルナリ故ニ若シ之ヲ實施セ  
 ントセハ其初ニ於テ充分ノ注意ヲナシ實地ニ適當ナル方案ヲ設ケテ之ヲ施行セサレハ啻ニ勞費ヲ  
 消耗シテ遂ニ其良果ヲ見サルノミナラス一樹一木モ其跡ヲ止メス如何ニ之ヲ獎勵スルモ兒童ハ倦  
 ミテ之ヲ避ケ教師ハ捨テ之ヲ顧ミサルニ至ルヘシ果シテ此ノ如キ有様ニ陥ルトキハ折角ノ美譽モ  
 徒ニ幣害ヲ醸スノ泉源トナリ遂ニ一種ノ流行熱トシテ笑ヲ後世ニ貽スニ過キサランコトヲ憂フル  
 ナリ

●訓令甲第二十六號

(明治三十四年十月四日)

郡役所 市役所 市町村立小學校

小學校一覽表ハ自今各郡市長ノ定ムル様式ニ依リテ調製シ校内教員室若クハ適宜ノ場所ニ掲クヘ  
 シ但シ郡市長ニ於テ様式ヲ定メタルトキハ遲滞ナク知事ニ報告スヘシ其ノ變更ノ場合又同シ

### 第三章 師範學校

●告示第十九號

(明治二十六年四月一日)

静岡縣師範學校規程左ノ通相定ム但明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

静岡縣師範學校規程(三十四年勅令第三百四十六號ニ依リ舊規程ノ二字消滅)

#### 學期及學科

第一條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス(三十四年告示第三百三十一號ヲ以テ改正)

第一學期 四月一日ニ始マリ八月三十一日ニ終ル

第二學期 九月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三學期 翌年一月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第二條 教授日數ハ毎年四十二週教授時間ハ每週三十四時トス(全上)

第三條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ(全上)

一 祝日 大祭日

二 日曜日

三 夏季休業日 七月二十一日ヨリ九月十日ニ至ル

四 冬季休業日 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

五 學年始休業日 四月一日ヨリ同月五日ニ至ル



第四條 毎日教授時數ノ終始ハ左ノ範圍内ニ於テ學校長之ヲ定ム(全上)

一 四月一日ヨリ五月三十一日ニ至ル 午前八時 午後三時

二 六月一日ヨリ九月三十日ニ至ル 午前七時 午後二時

三 十月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル 午前八時 午後三時

第五條 學科目ハ修身、教育、國語、漢文、歴史、地理、數學、物理化學、博物、習字、圖書、音樂、体操及英語トス

試験及證書

第六條 生徒學業ノ進歩及習熟ノ度ヲ檢定シテ教授上ノ參考ニ供シ又ハ卒業ヲ認定スル爲メ各學科目ノ試験ヲ行フ

第七條 試験ヲ分チテ定時試験及臨時試験ノ二種トナス定時試験ハ各學期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ臨時試験ハ各學期内ニ於テ一回若クハ二回臨時ニ之ヲ行フ

第八條 試験ノ成績ハ凡テ點數ヲ以テ之ヲ評定シ各學科壹百ヲ以テ其定點トス

第九條 試験ノ點數ニハ學科ニ依リ平常所採ノ日課點ヲ代用シ若クハ其歩合ヲ定メテ之ヲ計入スルコトヲ得

第十條 各學期末ニハ各學科ノ臨時試験點ト定時試験點トヲ合算シ試験ノ度數ニテ扣除シ學期得

點ヲ定ム

第十一條 學年末ニハ該學年内ノ學期得點ヲ合計シ之ヲ三分シテ各學科ノ學年得點トシ學年得點ヲ平均シテ學年通約點ヲ定ム

第十二條 臨時試験及定時試験ヲ欠キタルニ依リ學期得點算出スルコト能ハサルモノニハ其學年内ニ於ケル他ノ學期得點(一回ナラハ其平均點)ヲ二分ノ一ヲ補點トシテ與ヘ其學年得點ヲ計算ス

但臨時試験若クハ定時試験ヲ欠キタルモノハ學期得點ヲ計算スルモ亦本文ノ例ニ準ス

第十三條 學年末ニ於テ各學科ノ學年得點五十以上ニシテ學年通約點六十以上ヲ得タルモノヲ及第トス

最終學年末ニハ左ノ諸項ノ係數ヲ準シテ點數ヲ計算シ諸項ノ各點數五十以上ニシテ總通約點六十以上ヲ得タルモノヲ及第トス

一 第一學年通約點	係數	一
二 第二學年通約點	全	一
三 第三學年通約點	全	二
四 第四學年通約點	全	三



五 實地學業點 全 三

第十四條 試験ノ成績ヲ調査スルニ就キ前條ニ依リ難キ場合アルトキハ師範學校長ハ教員會議ノ評決ヲ取り特別ノ處分ヲナスコトヲ得

第十五條 第十三條第一項ニ該當スル者ニハ修業證書全條第二項ニ該當スル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ其證書式左ノ如シ

修業證書式

校印		修業證書	
族籍	姓名	生年月	
師範學校第何學年ノ課程ヲ修業セシコトヲ證ス			
年月日			
番號	静岡縣師範學校		

卒業證書式

校印		卒業證書	
族籍	姓名	生年月	
右者當校ニ於テ師範學校ノ課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス			
年月日			
番號	静岡縣師範學校長位勳爵姓名印		

第十六條 卒業者ノ席次ハ第十三條第二項ノ總通約点ヲ標準トシ在學中ノ操行ヲ參酌シテ之ニ定ム

雜 則

第十七條 生徒在學中ハ寄宿舎ニ寄宿セシム但夏季及冬季休業中ハ歸郷セシム寄宿舎ニ關スル規則ハ師範學校長之ヲ定ムヘシ

第十八條 生徒ノ賞罰ハ師範學校長之ヲ行フヘシ

第十九條 生徒ノ賞罰ハ左ノ諸項ニ依テ之ヲ行フヘシ(三十四年告示第百三十號ヲ以テ改正)

賞

一 褒 狀

罰

一 戒 飭 二 謹 慎 三 停 學 四 退 學

第二十條 生徒賞罰ノ施行ニ關スル手續ハ師範學校長之ヲ定ムヘシ

●縣令第八號 (明治二十九年一月二十日)

明治二十七年一月縣令第一號静岡縣師範學校小學校教員講習科規程左ノ通改定ス

静岡縣師範學校小學校教員講習科規程(三十年勅令第三百四十六號ニ依リ尋常ノ二字消滅)

第一條 静岡縣師範學校ニ小學校教員講習科ヲ設ク

第二條 尋常小學校教員講習科ハ左ノ二類トシ便宜其一類若クハ其二類ヲ開設スルモノトス



- 第一類 尋常小學校本科正教員タルニ要スル學科ヲ講習セシムルモノ
- 第二類 尋常小學校本科准教員タルニ要スル學科ヲ講習セシムルモノ  
前項第二類ノ講習科ヲ開設スルトキハ便宜ノ地ニ該講習所ヲ分設ス此場合ニ於テハ其所屬講習生募集ノ區域ヲ劃定ス但分設スル講習所ノ位置及其講習生募集ノ區域ハ第五條ノ例ニ依リ之ヲ管内ニ告示ス
- 第三條 小學校教員講習科ノ科目及其程度ハ左ノ如シ  
但シ各科目毎週教授時數ハ別ニ之ヲ定ム(三十五年縣令第十號ヲ以テ但書追加)
- 第一類 科目ハ修身教育國語算術地理歴史習字体操及音樂理科ノ十科トシ程度ハ尋常小學校本科正教員檢定試験ノ程度及音樂理科ノ大要トス(三十二年縣令第三號十八號ヲ以テ改正)
- 第二類 尋常小學校本科准教員ノ試験科目及其程度ニ同シ
- 第四條 小學校教員講習科ノ講習期限ハ第一類ハ一ケ年第二類ハ凡六ケ月トシ其講習日數ハ第一類ニ在リテハ四十二週第二類ニ在リテハ二十三週トシ教授時數ハ每週三十四時トス  
休業日及毎日教授時間ノ終始ハ本校ノ規定ニ依ル(三十五年縣令第十號ヲ以テ追加改正)
- 第五條 講習生募集ノ員數及講習科ノ開期ハ開期ノ二ケ月前ニ之ヲ管内ニ告示ス但講習生ノ缺員ヲ補充スル爲メ臨時ニ募集スル場合ニ於テハ本文ノ期限ニ拘ラス之ヲ管内ニ告示ス

- 第六條 講習生ハ左ノ第一乃至第四ノ資格ヲ有スルモノニ就キ郡市長之ヲ選舉スヘシ但第二類ニ在リテハ第二ヲ缺ク(三十二年縣令第三號十八號ヲ以テ修正)
  - 一 身体健全品行方正ノ男子ニシテ小學校教員タルノ志望確實ナル者
  - 二 高等小學校若クハ尋常小學校授業生免許狀、小學校若クハ尋常小學校本科准教員免許狀、初等小學校教員免許狀、簡易科教員免許狀、一科若クハ數科ノ小學校教員地方免許狀又ハ仮免許狀、小學校專科教員免許狀ノ一種若クハ數種ヲ有シ一ケ年以上公立小學校教員ノ職ニ在リタル者但特別ノ事情アル場合ニ於テハ其在職期間ハ本文ノ制限ニ依ラサルコトヲ得(三十三年縣令第七號十五號ヲ以テ削除)
  - 三 講習期中平時ニ在リテ現役若クハ勤務演習ノ爲メ召集セラル、コトナキモノ(三十二年縣令第三號十八號ヲ以テ追加)
- 第七條 郡市長ニ於テ講習生ヲ撰舉スルトキハ講習開期一ケ月前ニ其本人ノ志願書及履歷書ヲ添ヘ之ヲ師範學校長ヘ通報スヘシ但補缺員募集ノ場合ニ於テハ募集ノ告示ヲナシタル日ヨリ十五日以内ニ本文ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第八條 師範學校長ハ講習志願者ノ身体品行及學力等ヲ檢定シ適當ト認ムル者ニ講習ヲ許可スヘシ



師範學校生徒募集細則第三條乃至第五條ノ規定ハ講習志願者ニ關シ之ヲ準用ス

師範學校長ハ講習志願者ニ講習ヲ許可シタルトキハ之レヲ撰舉シタル郡市長ニ通知スヘシ

(三十五年縣令第十號)  
ヲ以テ本條項追加

第九條 (三十五年縣令第十號)  
十號ヲ以テ削除

第十條 講習志願者講習ノ許可ヲ得タルトキハ左ノ證書ヲ差出スヘシ

保證人講習所ニ在地ヨリ一里以外ニ居住スル場合ニ於テハ其一里以内ニ居住スル者ヲ代理者ト

シ師範學校長ニ届ケ置クヘシ(三十二年縣令第三十八號ヲ以テ追加)

證

私儀今般 校ニ於テ講習御許可相成候ニ就テハ御規則ヲ守リ御指揮ヲ奉シ一意勉學講習終了ノ上ハ小學校教員ニ從事可仕候尤自身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受可申候仍テ證書如件

静岡縣何郡市何町村何番地居住

華士族平民戸主誰男弟等

本人 姓

名 印

静岡縣何郡市何町村何番地居住

華士族平民

年月日

保證人 姓

名 印

静岡縣師範學校長何某殿

第十一條 講習生ハ師範學校長ノ指定スル寄宿所ニ止宿スヘキモノトス但師範學校長ニ於テ其自宅ヨリ通學シ得ヘキモノト認メ許可シタル者ハ通學スルコトヲ得

第十二條 講習生講習中ノ費用ハ自辨トス但若干ノ補助ヲ與フルコトアルヘシ其補助ヲ與フヘキ人員及金額ハ講習生募集ノ際之ヲ告示ス

講習ヲ許可スヘキ者ノ員數前項但書ニ依リ補助ヲ與フヘキ者ノ定員ヨリ超過スル場合ニ於テハ師範學校長其補助ヲ與フヘキ者ヲ指定スヘシ

補助金ハ通學ヲ許可シタル者ニハ給與セス

第十三條 師範學校長ハ小學校教員講習科ヲ修了シタル者ニ左ノ區別ニ從ヒ修了證書ヲ授與スヘシ(三十二年縣令第七十五號及三十五年全第十號ヲ以テ本條項及舊式改正)

但シ修了ノ認定ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

一 全科ヲ修了セシ者ニハ第一號式ノ修了證書

二 一科若クハ數科ヲ修了セシ者ニハ第二號式ノ修了證書



第一號式

修了證書

族籍

姓名

生年月

右ハ小學校教員講習科ニ於テ尋常小學校(本科正)准  
教員タルニ要スル全學科ヲ修了シタルコトヲ證ス

年 月 日 静岡縣師範學校長位勳爵氏名圖

番 號

第二號式

修了證書

族籍

姓名

生年月

右ハ小學校教員講習科ニ於テ前記ノ通り尋常小學校  
(本科正)准教員タルニ要スル何科目ヲ修了シタルコ  
トヲ證ス

年 月 日 静岡縣師範學校長位勳爵氏名圖

番 號

第十四條 講習生ニシテ全科修了證書ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ左ノ區別ニ從ヒ師範學校長ヲ

經由シテ檢定ヲ出願スヘシ

一 第一類ノ者ニアリテハ尋常小學校本科正教員試験檢定

二 第二類ノ者ニアリテハ尋常小學校准教員無試験檢定

前項ノ出願ニツキテハ明治三十三年九月縣令第七十二號小學校教員檢定細則第二條及第五條(願  
書々式ヲ除ク)ヲ適用セス(三十三年縣令第七  
十五號ヲ以テ改正)

第十四條ノ二 前條ニ依リ檢定ヲ出願シタル者ノ爲メニ臨時ニ試験檢定ヲ施行ス(三十五年縣令第  
十號ヲ以テ追加)

第十五條 講習生ニシテ前條ニヨリ小學校教員免許狀ヲ得タルトキハ其免許狀受得ノ日ヨリ左ノ  
年限間其選舉セラレタル郡市内若クハ本縣内郡市内ニ適當ノ位  
地ナキトキニ限ルニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義  
務ヲ有ス

一 講習中學資ノ補助ヲ受ケタルモノ

第一類ニ在リテハ三ヶ年

第二類ニ在リテハ二ヶ年

二 講習中學資ノ補助ヲ受ケタルモノ

第一類ニ在リテハ一年六ヶ月



第二類ニ在リテハ一ケ年(三十二年縣令第三十八號及三十三年令第五十七號ヲ以テ改正)

第十六條(三十二年縣令第三十八號ヲ以テ削除)

第十七條 講習中不都合ノ行爲等アリテ講習ヲ差止メタル者又ハ謂ハレ無ク第十四條第十五條ニ規定シタル義務ヲ盡サ、ル者ニシテ講習中學資ノ補助ヲ受ケタル者ハ其學資ヲ償還セシム(三十二年縣令第三十八號ヲ以テ改正)

第十八條 本規程ニ掲ケタルモノ、外師範學科及其生徒ニ關スル規程ニシテ適用スルコトヲ得ルモノハ小學校教員講習科及講習生ニ適用ス

第十九條 本規程ニ關スル細則ハ師範學校長之ヲ定ムヘシ

第二十條 本規程發布以前ニ募集セラレタル講習生ニ就テハ第十二條第一項ノ補助額ハ一ケ月金貳圓ヲ支給シ第十五條第一ノ服務年限ハ免許狀受得ノ日ヨリ三ケ年トス

附 則

第十五條改正並第十六條削除ハ本令(三十二年縣令第三十八號)發布以後ニ於テ小學校教員講習科ニ入ル者ニ限リ適用ス

●縣令第七十號

(明治三十一年二月二十七日)

明治二十六年三月縣令第三十一號師範學校生徒募集細則左ノ通り改正ス

師範學校生徒募集細則

第一條 生徒ノ募集ハ毎年一月中ニ告示ス

第二條 入學志願者ハ入學願書ニ履歷書並身分ニ關スル戸籍吏ノ證明書ヲ添ヘ二月末日迄ニ師範學校長ニ願出ツヘシ

第三條 入學志願者ノ學力試験及身體檢査ハ師範學校ニ於テ施行ス但時宜ニ依リ學力試験ノ全部若クハ一部ヲ志願者ノ所轄郡役所ニ於テ施行セシムルコトアルヘシ

第四條 師範學校長ハ入學志願者中適當ノ學力アリト認定スルモノアルトキハ其學力試験ヲ缺クコトヲ得

第五條 師範學校長ハ入學志願者ノ學力試験及身體檢査ヲ施行スヘキ時日ヲ定ムヘシ

第六條 師範學校長ハ入學志願者ヲ撰拔シテ假入學ヲ許可シタルトキ又ハ第三條但書及第四條第五條ノ場合ニ於テハ其旨ヲ本人ニ通知スヘシ

第七條 入學志願者入學ヲ許可サレタルトキハ入學證書ヲ差出スヘシ

第八條 保證人ハ本縣内市町村ノ公民タルモノ二人ヲ要ス

第九條 保證人ハ其保證シタル生徒在學中支給サレタル學資ノ償還ヲ命セラル、モ之ヲ完納スルコト能ハサルトキハ辨償ノ義務ヲ負擔スヘシ



第十條 保證人師範學校所在地ヨリ一里以外ニ居住スル場合ニ於テハ其一里以内ニ居住スル者ヲ以テ代理者トシ豫テ師範學校ニ届置クヘシ

第十一條 師範學校長ニ於テ保證人若クハ保證人代理者ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ換ヘシムルコトアルヘシ

第十二條 入學願書履歷書及入學證書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ

入學願書

私儀小學校教員志望ニ付御校へ入學致度別紙履歷書並身分證明書相添へ此段奉願候也

何道府縣何郡市町村大字何番地

何道府縣華士族平民

戸主誰男弟等

年月日

氏

名印

生年月

静岡縣師範學校長氏名宛

前書何某ハ罰ヲ受ケタルコト無キ者(何罰ヲ受ケタル者)ニ相違無之候也

年月日

静岡縣何郡町村長(市長)氏

名印

履歷書

何道府縣何郡市町村大字何番地

何道府縣華士族平民

戸主誰男弟等

生所何道府縣何郡市町村氏

名印

生年月

一 何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業證書ヲ受ク卒(業證書ノ寫ヲ添付スヘシ)

一 何年何月何道府縣ニ於テ甲(乙)種檢定ヲ經某小學校教員免許狀ヲ受ク(免許狀ノ寫ヲ添付スヘシ)

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校ニ於テ何科修業

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス(辞令書アルモノハ寫ヲ添付スヘシ)

一 何年何月何所ニ於テ何廉ニ依リ何賞ヲ受ク

一 罰ヲ受ケタルコトナシ(何年何月何日何所ニ於テ何廉ニヨリ何罰ヲ受ク)

右

年月日

氏

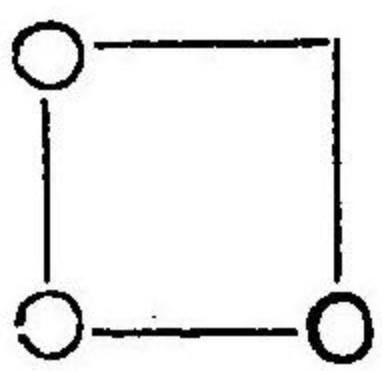
名印



入學證書

本人印

保證人印



私儀今般御校生徒ニ御撰拔入學御許可相成候ニ就テハ御規則ヲ守リ御指揮ヲ奉シ一意勉學卒業ノ上ハ必ス小學校教員ノ職ニ從事可仕候若シ不都合ノ行爲アリテ退學ニ處セラレ在學中御支給相成候學資ノ償還ヲ命セラレ候節ハ直ニ完納可仕候依テ證書如件

何道府縣何郡市町村大字何番地

何道府縣華士族平民

戶主誰男弟等

本人氏

名印

年月日

前書之通り相違無之候ニ付拙者共證人ニ相立チ本人身上ヨリ相起リ候事件ハ一切引受ケ可申候也

静岡縣何郡市町村大字何番地

何道府縣華士族平民

保證人氏

名印

年月日

全全

年月日

保證人氏

名印

静岡縣師範學校校長氏名宛

前書保證人某々ハ當市町村公民ニ相違無之候也

年月日

静岡縣何郡市町村長(市長)氏

名印

●縣令第三十號 (明治二十六年三月二十九日)

明治二十五年<sup>七</sup>文部省令第十一號師範學校卒業生服務規則第七條ニ依リ師範學校卒業生服務細則左ノ通相定ム但明治二十六年四月一日ヨリ施行ス(三十年勅令第三百四十六號ニ依リ尋常ノ二字消滅)

師範學校卒業生服務細則

第一條 師範學校卒業生服務規則第一條第二條ノ義務ヲ卒リタル者ハ其義務ヲ卒リタル日ヨリ十日以内ニ經歷書ヲ具シ届出ツヘシ其届書經歷書ノ書式ハ左ノ如シ

届書式

私儀何年何月何日師範學校卒業生服務規則第一條(第二條)ノ義務ヲ卒リ候間別紙經歷書相添此段御届申上候也

年月日

職名

何

某印



靜岡縣知事某殿

經歷書式

住所族籍

何

某

- 一 何年何月何日靜岡縣師範學校ニ於テ師範學校卒業證書受領
- 一 何年何月何日ヨリ何年間靜岡縣何郡市何町村立小學校教員奉職
- 一 何年何月何日ヨリ何年間何府縣何郡市何町村ニ於テ何々職務ニ従事ス
- 一 何々

右  
年月日  
何  
某印

第二條 師範學校卒業生服務規則第四條第一項ニ依リ指揮ヲ請ハントスル者ハ疾病ニ就テハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ就テハ所屬市町村長ノ證明書ヲ添ヘ出願スヘシ

第三條 師範學校卒業生服務規則第四條第二項若クハ第六條ニ依リ學資ヲ償還セシムル場合ニ於テハ特別ノ情狀アルモノ、外一時ニ之ヲ還納セシム

第四條 師範學校卒業生服務規則第五條ニ依リ報告スヘキ服務ノ狀況報告書ニハ左ノ事項ヲ記載

スヘシ但學務ニ關スル他ノ公職ニ従事スル者ハ其職務上取扱ヒタル事務ノ概要及轉勤轉職賞罰等ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

- 一 其學校ノ種類名稱及所在地名
- 二 其學校ニ就學スル生徒男女ノ現在數
- 三 其學校學級ノ編制教員ノ配置方
- 四 其受持ツ學級若クハ教科目
- 五 其受持ツ生徒ノ男女員數及教授時間
- 六 其學校生徒教育ノ成績ノ大要
- 七 教育ニ關スル實驗上利アリト認メ若クハ害アリト認メタル事項
- 八 擔任若クハ分掌スル教育事務ノ要項
- 九 前項報告以後ニ係ル轉勤轉職及賞罰等職務上ノ事項
- 十 右ノ外其必要ト認メタル事項

◎訓令甲第二十號 (明治三十三年六月二十九日)

師範學校

其校附屬小學校尋常科ニ於テハ夏季ニ在リテハ午前八時其他ノ時季ニ在リテハ午前九時ヨリ早ク



始業スヘカラス

◎三第一二五四號ノ三

(明治三十四年七月十五日)

師範學校長 內務部長通牒

師範學校附屬小學校ニ關スル規程ハ追テ何分改定セラル、迄左記ノ通御心得有之度依命此段及通牒候也

- 一 教則ハ小學校令施行規則第一條乃至第十二條及第十六條ニ依ルヘシ但シ各教科目ノ程度ハ次項ニ依ルヘシ
- 二 各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ小學校令施行規則第四號表及第七號表ヲ準用シ左ノ通り修正シ且算術欄内括弧アル事項ノ括弧ヲ除去シ且日用簿記ノ四字ヲ削除ス但シ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制シタルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部各一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得
- 國語 尋常第三、四學年ニ於テ女一時ヲ減ス
- 算術 同上
- 体操 尋常第一、二學年ニ於テ男女共一時ヲ減ス
- 唱歌 尋常科各學年ヲ通シテ男女共一時ヲ加フ

- 裁縫 尋常科第三、四學科ニ於テ二時ヲ加フ
- 手工 高等科各學年ヲ通シテ男一時ヲ加フ
- 計 尋常科第三、四學年ニ於テ男女共二十八時、高等科各學年ヲ通シテ男二十九時トス
- 儀式ニ就キテハ小學校令施行規則第二十八條ヲ準用ス
- 四 學年學期及休業日ハ本校ノ規定ニ從フ但シ夏期休業後九月二十日マテハ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得
- 五 各教科目ノ教授細目ハ附屬小學校主事ヲシテ之ヲ定メシムヘシ
- 六 明治三十四年一縣令第五號第二條第三條第八條及第十八條乃至第二十二條ノ規定ハ之ヲ準用ス
- 七 卒業證書、修業證書及學習證書ハ之ヲ授與スヘシ但シ其書式ハ明治三十四年一縣令第五號第二十三條ノ規程ヲ準用シ修業證書及學修證書ニ在リテハ附屬小學校名ヲ以テスヘシ
- 八 學籍簿及出席簿ハ小學校令施行規則第八十九條及第九十條ノ規定ニ依リ高等科兒童ニモ之ヲ準用ス
- 九 明治三十四年一縣令第三號第十七條及第十八條ノ規定ハ之ヲ準用ス
- 十 教科用圖書ハ市町村立小學校ノ例ニ依ルヘシ



右之外ハ従前ノ例ニ依ル

●告示第八十一號

(明治三十五年四月十一日)

明治二十五年四月告示第二十二號静岡縣師範學校附屬小學校授業料規則左之通改正ス

静岡縣師範學校附屬小學校授業料規則

第一條 静岡縣師範學校第一附屬小學校ニ在テハ一學年尋常科金參圓參拾錢高等科金五圓トシ納期ヲ四月七月十月一月ノ四回ニ分チ尋常科ハ第二期ハ金六拾錢其他ハ金九拾錢高等科ハ每期金壹圓貳拾五錢ヲ其月十日ニ納付セシムルモノトス

静岡縣師範學校第二附屬小學校ニ在テハ一學年尋常科金壹圓六拾五錢トシ八月ヲ除キ每月金拾五錢ヲ其月十日ニ納付セシムルモノトス

單級ニ編制シタル尋常科ニ於テハ授業料ヲ徴收セス

第二條 一家二人以上入學スルトキハ少額ヲ納ムルモノ一人ハ全額其他ハ半額ヲ納付セシムルモノトス

一家ニシテ第一條第一項ノ授業料ヲ納ムルモノ第二項ノ授業料ヲ納ムルモノトアル場合亦前項ニ準ス

第三條 授業料ハ休業又ハ生徒各自ノ缺課ニ依リ之ヲ減免セス但臨時休業數月ニ涉ルトキハ第一

條第一項ノ授業料ヲ納ムルモノニ就キテハ休業三ヶ月以上ニ及フ毎ニ第二項ノ授業料ヲ納ムル

モノニ就キテハ休業一ヶ月ニ及フ毎ニ休業中ニ屬スル納期ノ授業料ヲ徴收セサルモノトス

第四條 第一條第一項ニ依ル授業料ハ毎納期ノ翌月十五日マテニ入學スルモノハ該一期間ノ全額

ヲ納付セシメ同十五日後ニ入學スルモノハ半額ヲ納付セシムルモノトス

納期後入學スルモノ、授業料ハ其際直ニ納付セシムルモノトス

第五條 授業料ハ納付後退學スルモノアルモ之カ下戻ヲナサルモノトス

第六條 貧困ニシテ授業料ヲ納ムルコト能ハサルモノハ静岡市長ノ證明ニ依リ師範學校長ニ於テ

其一部若クハ全部ヲ免除スルコトヲ得

附 則

第七條 第一條第二項ノ納期ハ明治三十五年四月ニ限り同月二十日トス

●學第五八一號

(明治二十八年八月十四日)

静岡縣師範學校

其校職員服制左之通改正ス

但此際一時ニ本令ニ依リ難キ事情アルモノハ明治二十九年六月末日迄従前ノ制服ヲ着用スルコトヲ得



静岡縣師範學校長教諭助教訓導制服制圖例

形 狀	地 質	眼 庇	胸 紐	前 章	横 條 章
帽子如圖	絨濃紺	黑 革	黑皮巾三分五厘卸金メッキ櫻章ヲ附ス徑三分	金メッキ徑凡八分其形狀如圖	黑蛇腹トス校長ハ大小五線教諭ハ同三線助教訓導ハ同二線トス但大線ハ小線二條ヲ合セタル者トス如圖

(雜形零ス)

形 狀	地 質	胸 章	袖 章	製 式
上衣如圖	絨黑又ハ紺	黑毛系紐角紐胸部左右各五個ヲ附ス如圖(訓導ハ除之)	帽子横條章ト同	襟巾一寸二分金邊及背面ノ縫際ニ巾八分ノ黑線ヲ附ス
形 狀	地 質	側 章		
袴 如圖	上衣ニ同シ	巾八分ノ黑線ヲ兩側ニ附ス		
形 狀	地 質	卸	袖 章	製 式
外套如圖	絨黑又ハ紺	金メッキ圓形ノ櫻卸各六個ヲ胸部左右ニ附ス	黑蛇腹トス校長ハ三線教諭以下ハ一線ヲ附ス	長靴履ノ上ヲ距ル大約八寸トシ襟巾二寸トス

一 奏任官待遇ノ教諭ハ帽横條章及上衣並ニ外套袖章ニ小線一條ヲ增加ス

一 夏服ハ白色ヲ用キルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ帽ニ白ノ日覆ヲ附スヘシ但袴兩側ノ章ナシ

名 稱	形 狀	地 質	卸	製 式
マント	如 圖	絨黑又ハ紺裏適宜	墨胸部ニ三箇ヲ付ス	長手甲ノ履ルヲ以テ度トス襟巾二寸

一 マントハ外套ニ代用スルコトヲ得(二十九年學第四四五號ヲ以テ追加)

◎訓令甲第二十三號

(明治三十四年七月十九日)

師 範 學 校

師範學校長職務規程左之通相定ム

師範學校長職務規程

第一條 學校長ハ職員ノ進退ヲ具申スルコトヲ得但奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル教諭ノ進退ニ付キテハ意見ヲ具シテ知事ニ上申スルコトヲ得

第二條 左ノ事項ハ學校長之ヲ專行スヘシ但第四號乃至第七號ノ事項ハ施行後一週日以内ニ知事ニ報告スヘシ

一 教員ノ學科擔任及事務分掌ヲ定メ及事務員ノ分掌ヲ命スル事



- 二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クル事
  - 三 雜給支辨ノ雇員以下ノ進退ニ關スル事
  - 四 職員以下ノ除服出仕及請暇ニ關スル事
  - 五 生徒ノ募集及入退學ニ關スル事但募集人員及本校生徒ノ退學ニ關シテハ豫メ知事ノ指揮ヲ受クヘシ
  - 六 經伺ノ暇ナキ緊急ノ場合ニ於テ一日間臨時休業ヲ爲ス事
  - 七 本校生徒處罰ニ關スル事但退學ハ豫メ知事ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第三條 左ノ事項ハ學校長ニ於テ縣知事ノ許可ヲ經テ後施行スヘシ
- 一 職員以下出張ニ關スル事
  - 二 臨時休業スル事
  - 三 一泊以上ノ旅行ニ生徒ヲ引奉スル事
  - 四 其他例規ナキ重要ノ事件ヲ處置スル事
- 第四條 附屬小學校ニ關スル事務ニ就キテハ仍特別ノ規定ニ依ルヘシ

●訓令甲第二十九號

(明治三十四年十一月十五日)

師範學校

師範學校長學事視察規程左ノ通定ム

但シ明治二十七年四月學第二〇一號ハ之ヲ廢止ス

師範學校長學事視察規程

- 第一條 學校長ノ縣下ニ於ケル小學教育ニ屬スル學事ニ關シ視察スヘキ概目左ノ如シ
- 一 卒業生ノ勤務セル小學校ノ教授訓練及學校管理ノ狀況
  - 二 卒業生ノ品行勤惰及教育上ノ考案
  - 三 卒業生ノ行ヘル教授訓練及學校管理ノ方法
  - 四 其ノ他卒業生服務ノ狀況及其ノ成績
  - 五 第一號ノ外特ニ必要ト認ムル小學校ノ教授訓練及學校管理ノ狀況
- 第二條 學校長ハ視察シタル事項ニ關シ意見アルトキハ其ノ要領ヲ記シ知事ニ具申スヘシ
- 第三條 學校長ハ視察ヲ終ル毎ニ二週日以内ニ報告書ヲ調製シ知事ニ提出スヘシ

●訓令甲第三十二號

(明治三十四年十二月二十日)

師範學校

本科生徒病類別患者表ハ本年十二月文部省訓令第三號様式ニ依リ調製シ來明治三十五年度分ヨリ翌年度四月二十日限差出スヘシ



●告示第四十七號 (明治三十五年二月二十八日)

明治三十五年四月ヨリ静岡市片羽町ニ静岡縣師範學校附屬小學校ヲ設置シ静岡縣師範學校第二附屬小學校ト稱ス

●告示第八十二號 (明治三十五年四月十一日)

静岡市追手町ニ在ル静岡縣師範學校附屬小學校ヲ静岡縣師範學校第一附屬小學校ト改稱ス

### 第四章 中學校高等女學校及實業學校

●縣令第三十號 (明治三十四年三月三十日)

縣立中學校學則左之通相定メ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

#### 縣立中學校學則

- 第一章 學科課程教授時數及休業日
- 第二章 入學轉學及退學 (三十五年縣令第十) (一號ヲ以テ改正)
- 第三章 修業及卒業 (全上)
- 第四章 授業料及入學料
- 第五章 待待生

#### 第六章 懲戒

#### 第七章 寄宿舍

#### 第八章 服制

#### 第九章 補習科

#### 第十章 附則

#### 縣立中學校學則

##### 第一章 學科課程教授時數及休業日

第一條 中學校ノ學科課程及教授時數ハ左表ノ如シ

第一號表 (三十五年縣令第十) (一號ヲ以テ改正)

學科	學年別	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	全	全	全	全上倫理
國語	七	全	上	上	一	全上倫理
國文	七	全	上	上	一	全上倫理
漢文	七	全	上	上	一	全上倫理
英語	六	會譯讀	話解方	七	書譯讀	取解方

學 則 中學校高等女學校及實業學校



計	體操	圖畫	法制及經濟	物理及化學	博物學	數學	地理	歷史	英語	國語及漢文	修身
二九	三	一			二	五	一	二	七	七	一
	兵式體操	普通體操	自在畫		植物	代數	外國地理	東洋歷史	會話	讀法	講義
三〇	三	一		三	一	五		三	七	六	一
	全上	用器畫		化學	植物	全上		西洋歷史	會話	讀法	講義
三〇	三			三	二	五		三	七	六	一
	全上			物理	動物	幾何		日本歷史	會話	讀法	倫理學

第二號表(全上)

學科	學年別	計	體操	圖畫	經濟及法制	化學及物理	博物學	數學	地理	歷史	會話
學科	第一學年	二八	三	二			二	四	二	一	習書會 字取話
			兵式體操	自在畫			礦物界	算術	日本地理	日本歷史	
	第二學年	二八	三	二			二	四	一	二	書作 取文
			全上	用器畫			植物	代數	外國地理	全上	
	第三學年	二九	三	二			二	四	一	二	文書作 法取文
			全上	自在畫			動物生理	幾何	全上	東洋歷史	
第四學年	三〇	三	一				四	一	二		文作會 法文話
			全上	用器畫		化學	動物	全上	外國地理	西洋歷史	
第五學年	三〇	三		二		四	四	一	二		作會 文話
			全上		經濟	物理		三角法	地文	日本歷史	



濱松中學校ニ於テハ第三學年ノ地理ヲ削リ同圖畫ヲ二時トス

現ニ在學スル第三學年以上ノ生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ第二號表ニ依ルヘ

シ(三十五年縣令第十一號)

第二條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 祝日 大祭日

二 日曜日

三 夏季休業 七月二十一日ヨリ九月十日ニ至ル

四 冬季休業 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

五 學年末休業 二週間以内

第二章 入學轉學及退學

第三條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ每學年ノ始ヨリ三十日以内ニ於テ其ノ都度學校長之ヲ定ム

但シ第二學期及第三學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第四條 中學校ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ身体健康品行方正ノ者タルヘシ

第五條 第一學年入學志願者中高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ

テ入學ヲ許ス

第六條 入學ヲ許スヘキ生徒ノ人員及入學試験ノ期日等ハ生徒募集ノ都度之ヲ廣告ス

第七條 在學生徒ニシテ他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル者ハ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ願出ツヘシ

第八條 入學志願者ハ左ノ書式ニ依リ入學願書及學業履歷書ヲ差出スヘシ

入學願書式(三十五年縣令第十一號ヲ以テ表式中修正) (用紙左束紙)

某儀入學志願者ノ名御校第何學年へ入學志願ニ付御許可被成下度尤モ入學ノ上ハ御規則等堅ク相守可申候依テ別紙履歷書相添此段相願候也

入學願

住 所(本籍地)

族籍誰子弟等

入學志願者 氏 名 印

全 上

右父兄若クハ後見人

職 業 氏 名 印

學校長宛

履歷書式

(用紙左束紙)

學業履歷書

住 所(本籍地)

學 事

中學校高等女學校及實業學校



族籍誰子弟等  
氏名  
生年月日

一何年何月何府縣何郡市(町)村(私)立何々小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科若クハ高等小學校ノ教科(修業年限何々年)卒業又ハ其ノ第何學年修了

一何年何月何公(私)立學校ニ於テ何科卒業若クハ其第何學年修了

一何年何月ヨリ何年何月迄何地ニ於テ何某ニ就キ何學修業

右之通りニ候也

右 氏 名 印

第九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ學校長指定ノ日ニ父兄若クハ父兄ノ代理人附添出校スヘシ

第十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ保證書ヲ差出スヘシ

保證書式(三十五年縣令第十一號ヲ以テ舊式中修正) (用紙美濃紙)

保證書

住所(本籍地) 族籍誰子弟等 氏名 生年月日

印收紙入錢

右今般御校へ入學被差許候ニ就テハ御規則等堅ク爲相守且本人在學中ニ關スル事件ハ一切私共ニ於テ引受可申依テ保證書如此候也

住所(本籍地) 族籍職業

年月日 (第十一條第二號ノ關係ヲ記入スヘシ) 保證人 氏名 印

全 上

上(保證人 氏名 印)

學校長宛

第十一條 保證人ハ二名ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ニ限ル但シ學校長ニ於テ不適當ト認メタルトキ又ハ第十三條ノ手續ヲ怠リタルトキ及學校長ノ召喚ニ應セサルコトアルトキハ之ヲ取換ヘシムルコトアルヘシ

一 一戸ヲ構ヘ相當ナル家計ヲ立ツル成年以上ノ男子ニシテ且禁治産ノ處分ヲ受ケサル者但シ内一名ハ當該學校ヨリ一里以内ニ居住スル者タルヘシ(三十五年縣令第十號ヲ以テ改正)

二 父兄後見人若クハ親族或ハ父兄後見人ニ代リ生徒監督ノ實ヲ負フニ足ルヘキ者

第十二條 保證人改氏名改印若クハ轉居ノ場合ハ其ノ旨速ニ學校長ニ届出ツヘシ



第十三條 保證人死亡若クハ第十四條ノ要件ヲ失ヒタルトキハ直ニ保證書ヲ差換フヘシ  
 第十四條 生徒ハ半途ニシテ退學ヲ爲スコトヲ得ス若シ止ムコトヲ得サル事情アリテ退學セントスルトキハ兩保證人ノ連署ヲ以テ學校長ニ願出ツヘシ

第三章 修業及卒業

第十五條 各學科目ノ成績ハ評點ヲ以テ之ヲ表シ定點ヲ一百トス但シ數學ハ算術、代數、幾何、三角法ヲ各一學科目ト見做シ國語及漢文、英語ハ左表ノ類別ニ依リ其ノ一類ヲ一學科目ト見做ス(三十五年縣令第十一號ヲ以テ本條表改正)

英 語	漢 及 國 文				學 科 目 別				
	第一類	第二類	第三類	第四類	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
第一類	國語講讀	漢文講讀	作文、文法	習字	全	上	全	上	全
第二類	讀方、譯解	讀方、書取	全	全	全	上	全	上	全
第三類	發音綴字	譯解	全	全	上	全	上	全	上
第四類	會話書取	全	全	全	全	上	全	上	全
第五類	會話	全	全	全	全	上	全	上	全

第三類	第四類	習字	會話、作文	文法	會話
全	上	全	全	上	全
上	全	全	全	上	全
全	上	全	全	上	全
全	上	全	全	上	全

第十六條 試驗ヲ行フ學科目ハ試驗ノ成績ニ平素ノ學業成績ヲ參酌シテ其ノ評點ヲ定ム  
 試驗ヲ行ハサル學科目ハ平素ノ學業ヲ考查シ第一學期及第二學期ニ在リテハ學期評點ヲ第三學期ニ在リテハ學年評點ヲ定ム

第十七條 學年間成績ハ各學科目ニ就キ學期評點ノ平均點及學年評點ノ和ヲ平分シテ之ヲ定ム  
 第十八條 學年間成績ニ於テ各學科目四十五點以上ニシテ其通約點六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス(三十五年縣令第十號ヲ以テ改正)

第十九條 正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ學校長ノ見込ニ依リ平素ノ學業成績ノミヲ考查シテ其ノ評點ヲ定メ若クハ退試驗ヲ施行スルコトアルヘシ(全上)  
 第十九條ノ二 換行ハ甲乙丙丁戊ノ五等ニ分チ之ヲ評點ス(全上追加)

第二十條 第一學年乃至第四學年ノ課程ヲ修了シタル者ニハ修業證書ヲ第五學年ノ課程ヲ修了シタルモノニハ卒業證書ヲ授與ス其證書式左ノ如シ

修業證書式

修業證書
------



校印	族籍
氏名	生年月日
中學校第何學年ノ課程ヲ修了セシコトヲ證ス	學 校 名
年 月 日	番 號

卒業證書式

校印	族籍
氏名	生年月日
中學校ノ全學科ヲ履修シ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス	番 號
年 月 日	靜岡縣何中學校長位勳爵氏名圖

第四章 授業料及入學料

第二十一條 授業料ハ一箇月金壹圓貳拾錢トス但シ八月分ハ之ヲ徵收セス

第二十二條 授業料ハ學校ノ休業生徒ノ缺席若クハ停學ヲ命シタル場合ニ於テモ免除セサルモノ

トス

第二十三條 授業料ノ納期ハ毎月二十日限トス

第二十四條 納期内ニ授業料ヲ納メサルモノアルトキハ其ノ出席ヲ停止シ仍翌月二十日ヲ超ユルモ之ヲ納メサルトキハ生徒學籍簿ヨリ除キ其ノ未納ニ係ル授業料ハ保證人ヨリ徵收スルモノトス

第二十五條 入學料ハ之ヲ徵收セス

第五章 特待生

第二十六條 品行端正學業優等ノ生徒十名以内ヲ選抜シテ一學年間特待生ト爲スコトアルヘシ

特待生ノ授業料ハ之ヲ徵收セス

第二十七條 特待生ニシテ品行不良學業懈怠等ノコトアルトキハ其ノ待遇ヲ取消スモノトス

第六章 懲 戒

第二十八條 生徒ニ對スル懲戒ヲ分テ左ノ三種トス

一 戒飭

二 謹慎

三 停學 六箇月以内



第七章 寄宿舎

第二十九條 生徒ハ學校長ノ許可ヲ得テ自宅又ハ保證人ノ宅ヨリ通學スル者ノ外總テ寄宿舎ニ入舎セシム但シ寄宿舎滿員ノトキハ學校長ノ指揮ニ依ルヘシ

第三十條 寄宿生徒ノ學資ハ舎監ノ監理ヲ受クヘキモノトス

第八章 服制

第三十一條 生徒ノ服裝ハ左ノ如シ

品目	形状	色	品質
帽	佛蘭西形	黒 <small>（以季ハ白色ノ日覆ヲ用フ）</small> 但帽下部ニ桃色ノ布巾三分ノ一線ヲ纏フ	羅紗
帽章	中學ノ二字ヲ以テ組立タルモノ	金色	適宜
夏上衣	建線形、白色標模樣ノ中心ニ中文字アル如ク	藍鼠霜降	小倉織
全袴	同上	同上	同上
冬上衣	建線形、黒色標模樣ノ中心ニ中文字アル如ク	紺	ヘル若クハ小倉織
全袴	同上	同上	同上
靴	短靴	黒	チャリ皮

上衣及袴ノ品質ハ本條規定ノ範圍内ニ於テ學校長之ヲ一定スルコトヲ得  
外套ハ紺若クハ黒羅紗ニシテ乘馬用ニアラサルモノ其ノ釦ハ冬上衣ニ同シ

第九章 補習科

第三十二條 補習科ノ修業期間ハ四月一日ヨリ九月三十日迄トス

第三十三條 補習科ノ學科目及每週教授時數ハ左ノ如シ

學科目	每週教授時數
國語及漢文	三
英語	七
數學	五
物理及化學	三

第三十四條 補習科ノ授業料ハ一箇月金八拾錢トス

第三十五條 補習科ヲ修了シタル者ニハ修業證書ヲ授與ス其ノ證書式ハ第二十條ノ修業證書書式ニ準ス

第十章 附則



第三十六條 明治三十三年四月告示第七十七號靜岡縣中學校學則ハ之ヲ廢止ス

第三十七條 現ニ在學スル第三學年以上ノ生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルモノトス

●訓令丙第二一七號 (明治三十四年四月十九日)

縣立中學校長

補習科ノ教授ヲ開始セムトスルトキハ每學年四月五日迄ニ其ノ入學スヘキ生徒數及毎日教授終始ノ時刻ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ又其ノ毎日教授終始ノ時刻ヲ變更セムトスルトキハ之ニ準ス但シ本學年ニ限リ本文前段ノ規定ニ依ルヲ要セス

右訓令ス

●縣令第二十九號 (明治三十四年三月三十日)

公立中學校高等女學校及實業學校職員ノ職務ニ關スル規則左之通相定メ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

公立中學校高等女學校及實業學校職員ノ職務ニ關スル規則

第一條 學校長ハ法律命令ニ從ヒ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第二條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第三條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第四條 舍監ハ學校長ノ命ヲ受ケ寄宿舎ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 書記ハ學校長ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第六條 訓導ハ實業補習學校生徒ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第七條 准訓導ハ訓導ノ職掌ヲ助ク

●縣令第十七號 (明治三十四年三月十二日)

公立中學校高等女學校及實業學校職員俸給旅費其他諸給與ニ關スル規則左之通相定ム

公立中學校高等女學校及實業學校職員俸給旅費其他諸給與ニ關スル規則

第一條 中學校高等女學校及實業學校ノ學校長教諭助教諭舍監訓導書記及准訓導ノ俸給ハ別表ニ依リ支給ス但委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校長及教諭ハ其範圍内ニ於テ年俸ヲ以テ支給ス學校長俸給ハ乙種程度ノ實業學校ニ在テハ四拾圓マテ實業補習學校ニ在テハ貳拾五圓マテ減給スルコトヲ得

中學校高等女學校及實業學校准教員ノ俸給ハ教諭助教諭ノ俸給規定範圍内ニ於テ支給ス

第二條 前條ノ俸給支給方ニ就テハ明治二十五年勅令第九十六號高等官々等俸給令第十四條乃至第十八條及同年大藏省令第十一號文官俸給支給細則ヲ準用シ其支給定日ヲ毎月二十一日トス



第三條 中學校高等女學校及實業學校ノ職員ニシテ在職中死亡シタルトキハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クルモノニ在テハ明治二十五年勅令第九十六號高等官々等俸給令第十三條第一項ヲ判任文官ト同等ノ待遇ヲ受クルモノニ在テハ明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令第五條ヲ準用ス

第四條 中學校高等女學校及實業學校ノ職員ニシテ豫備後備又ハ補充兵役ニアル者ノ俸給支給方ニ就テハ明治二十四年勅令第六十二號ノ規定ヲ準用ス

第五條 中學校高等女學校及實業學校ノ職員ニシテ他ノ職ヲ兼ル場合ニ於テハ相當ノ手當金ヲ支給スルコトヲ得

特ニ職務ニ勉勵スル者ニハ一ヶ月ノ俸額以内ノ手當金ヲ支給スルコトヲ得

第六條 中學校高等女學校及實業學校職員ノ旅費ハ明治三十年勅令第三百三十三號內國旅費規則ヲ準用シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校長及教諭ハ該規定ノ旅費額三等ニ依リ其他ノ職員ハ四等ニ依リ支給ス

第七條 中學校高等女學校及實業學校ノ教員ニシテ學術講習等ノ爲派出セシムル場合ニ於テ規定ノ旅費額ヲ減給スルコトヲ得  
 修學旅行ノ爲生徒ヲ引率スルトキハ一人一日金五拾錢以内ノ日當ヲ支給スヘシ

附 則

第八條 明治三十二年四月縣令第十九號ハ之ヲ廢止ス

職 名	月 俸
學 校 長	百五拾圓以下五拾圓以上
教 諭	百圓以下參拾圓以上
助 教 諭	
舍 監	四拾圓以下拾貳圓以上
訓 導	
書 記	
准 訓 導	拾五圓以下八圓以上

◎學第五八二號 (明治二十八年八月十四日)

公立中學校

公立中學校職員服制左ノ通り相定ム

但此際一時ニ本令ニ依リ難キ事情アルモノハ明治二十九年六月末日迄靜岡縣尋常中學校ニ在リ



テハ從前 制服其他ノ中學校ニ在リテハ通常ノ洋服又ハ羽織袴ヲ着用スルコトヲ得

公立中學校長教諭助教制服制圖例

形狀	地質	眼庇	胸紐	前章	橫條章
形狀 如圖	絨濃紺	黑草	黑皮巾三分五厘 釦金メッキ 櫻章ヲ附ス徑三分	金メッキ徑凡八分 其形狀如圖	黑蛇腹トス校長ハ大小五線 教諭ハ同三線助教論舍監ハ同二線トス但大線ハ小線二條ヲ合セタル者トス如圖

形狀	地質	胸章	袖章	製式
上衣 如圖	絨黑又ハ紺	黑毛糸組角紐胸部左右各五個ヲ附ス如圖	帽子橫條章ト同	襟巾一寸二分金邊及背面ノ縫際ニ巾八分ノ黑縁ヲ附ス
袴 如圖	上衣ニ同シ	側 巾八分ノ黑縁ヲ兩側ニ附ス		
形狀	地質	袖章	製式	
外套 如圖	絨黑又ハ紺	釦各六個ヲ胸部左右ニ附ス 金メッキ圓形ノ櫻	黑蛇腹トス校長ハ三線教諭以下ハ一線ヲ附ス	長靴踵ノ上ヲ距ル大約八寸トシ襟巾二寸トス

一 奏任官待遇ノ校長教諭ハ朝橫條章及上衣並ニ外套袖章ニ小線一條ヲ增加ス

一 夏服ハ白色ヲ用ヰルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ朝ニ白ノ日覆ヲ附スヘシ但袴兩側ノ章ナシ

名稱	形狀	地質	釦	製式
マント	如圖	絨黑又ハ紺裏適宜	墨胸部二三箇ヲ付ス	長手甲ノ體ルヲ以テ度トス襟巾二寸

一 マントハ外套ニ代用スルコトヲ得(二十九年學第四四六號ヲ以テ追加)

(雜形容ス)

●縣令第四十八號

(明治三十四年七月五日)

公立中學校及高等女學校授業料及入學料ニ關スル規則左之通定ム

公立中學校及高等女學校授業料及入學料ニ關スル規則

- 第一條 授業料ハ一人一ヶ月金壹圓五拾錢以內トス
  - 第二條 休業全月ニ涉ルトキハ其ノ月ノ授業料ヲ徵收セサルコトヲ得
  - 第三條 成績優等ノ生徒ニ對シ期間ヲ定メテ授業料ノ一部若クハ全部ヲ徵收セサルコトヲ得
  - 第四條 授業料滞納者ニ對シテハ其ノ出席ヲ停止スルコトヲ得
- 出席ヲ停止シタル者仍授業料ヲ納メサルトキハ生徒學籍ヨリ除クコトヲ得

學事

中學校高等女學校及實業學校



第五條 入學料ハ徵收セサルモノトス但シ特ニ其ノ必要アルトキハ一人金壹圓以下ノ範圍内ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

第六條 明治三十二年縣令第四十四號及明治三十四年縣令第十六號ハ之ヲ廢止ス

●三第八四六號 (明治三十五年三月一日)

各縣立中學校長 內務部長通牒

今般文部省ニ於テ中學校教授要目ヲ編纂セラレタルニ付之ヲ斟酌シ適當ナル教授細目ヲ定メ以テ各學科教授ノ効果ヲ完カラシメンコトヲカメラルヘク依命此段及通牒候也

追テ中學校教授要目ハ三十五年二月六日發刊官報第五千五百七十五號訓令欄ニ就キ了知セラルヘク此段申添候也

●三第八四六號ノ一 (明治三十五年三月一日)

賀茂榛原郡長 內務部長通牒

今般文部省ニ於テ中學校教授要目ヲ編纂セラレタルニ付貴郡立中學校長ヲシテ之ヲ斟酌シ適當ナル教授細目ヲ定メ以テ各學科教授ノ効果ヲ完カラシメンコトヲカメシメラルヘク依命此段及通牒候也

追書前同文

●三第三一八二號ノ一 (明治三十五年六月十三日)

賀茂、田方、駿東、榛原、濱名、靜岡各郡市長 內務部長移牒

中學校高等女學校ノ教育ニ關シ別記ノ事項ハ夫々施設改良ヲ要スヘキモノト認メタル趣ヲ以テ各學校長ヲシテ一層注意セシメラレタキ旨其筋ヨリ通牒有之候ニ付再然御取扱相成度依命此段及移牒候也

●三第三一八二號ノ三 (明治三十五年六月十三日)

縣立中學校長 內務部長通牒

中學校ノ教育ニ關シ別記ノ事項ハ夫々施設改良ヲ要スヘキモノト認メタル趣ヲ以テ其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付一層注意セラレ度依命此段及通牒候也

追テ昨年三月訓令第十一號第三條第三號ニ依リ許可申請ノ場合ニハ其ノ目的地順路出發歸還ノ日時、監督及費用支辨方法、其ノ人數等ヲ詳具セラレ度此段申添候也

●(三第三二八二號別記)

一 學校ニ於テ教授ノ進度ヲ記錄スルハ教育上必要ナルニ依リ適宜ナル方法ヲ設ケテ實施スヘキコト但本文ノ方法ハ知事ニ報告スルコト



- 二 學校ニ於テ教師ノ缺員又ハ缺勤ノ場合ニ於テ生徒ヲ徒ラニ休マシムルハ教育上有害ノコトナレハ缺員又ハ缺勤ヲ少カラシムヘキハ勿論若シコレアルニ於テハ適宜ノ方法ニ依リ相當教授ヲナシ以テ成ルヘク一學年間ニ於ケル各學科目ノ豫定時數ニ缺損ナカラシムヘキコト
- 三 學校ト家庭ト互ニ連絡シテ生徒ノ教養ニ當ルハ最必要ナルコトナリ然ルニ現今コレカ連絡十分ナラサルノ感アリ一層注意スルコト
- 四 中學校ニ於テ体育上訓練上遊戯ヲ獎勵スルハ必要ノコトタリコレカ種類ヲ選定スルニハ凡ソ左ノ標準ニ依ルヘキコト
  - 一 体育的ナルモノ
  - 二 成ル可ク團體的ナルモノ
  - 三 主トシテ戶外ニ行ハルヘキモノ
- 五 中學校ニ於テ修學旅行ヲ行フハ教授上ノ目的ヲ以テナスモノニ限ルハ勿論之ヲ行フニ當リテハ十分其ノ準備注意ヲナスヘク且成ル可ク左ノ制限内ニ於テナスヘキコト
  - 一 宿泊ヲ要スル旅行ハ第四學年以上ノ生徒ニ限ルコト
  - 二 宿泊ヲ要スル旅行ハ一學年間ニ一回トシ毎回三泊以下ヲ常例トスルコト
- 中學校生徒ニシテ學校休業中無錢旅行ヲ企ツル等不都合ノ舉動ヲナス者アルヤニ付是等ニ

- 對シテハ十分ノ取締ヲナスヘキコト
  - 六 現今中學校ノ寄宿舎ハ往々親切和樂ノ風ニ乏シキ嫌アリ教育上遺憾不少自今一層注意スルコト
  - 七 中學校寄宿舎以外ニ在ル生徒ニシテ監督者ナキ場合ニハ往々教育上憂慮スヘキ弊風ニ陥ルコトアルニ依リ學校ニ於テ是等生徒ニ對シ相當監督ノ方法ヲ講スルコト
- 告示第八十四號 (明治三十三年五月四日)
- 静岡縣農學校學則左之通相定ム
- 静岡縣農學校學則
- 第一章 總 則
- 第一條 本校ハ明治三十二年文部省令第九號農業學校規程甲種ノ程度ニ從ヒ農業ニ關スル學理ヲ教授シ併セテ農業上諸般ノ事務ニ堪ユル人物ヲ養成スル所トス
  - 第二條 修業年限ハ三ヶ年トシ一ヶ年ヲ以テ一學年トス
  - 第三條 生徒ハ二百三十名ヲ以テ定員トス(三十五年告示第五十八號ヲ以テ改正)
  - 第四條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
  - 第五條 一學年中ノ休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ



一日曜日  
 二 祝日 大祭日  
 三 冬季休業(十二月二十五日ヨリ一月七日迄十四日間)  
 四 學年試驗後七日間  
 第六條 夏季七月十一日ヨリ九月十日迄二ヶ月間每週十八時間以上ヲ課シ且ツ生徒ヲ半數ニ分チ一ヶ月ツ、交互ニ休暇ヲ與フ  
 第二章 教科課程  
 第七條 本校ノ教科ハ修身讀書作文地理歷史數學物理化學博物氣候土壤肥料作物園藝病虫害養畜畜產製造水產學大意林學大意外國語經濟體操法規習トス  
 第八條 本校各教科ノ課程及每週授業時數ヲ定ムルコト左ノ如シ

教科課程及每週授業時數

修 身	第一學年		第二學年		第三學年	
	時間	授業	時間	授業	時間	授業
人倫道德ノ要旨	一	全	上	全	上	全
國語、漢文、作文	三	全	上	全	上	全
物理學	二	全	上	全	上	全
無機化學	二	全	上	全	上	全
有機化學	三	全	上	全	上	全
動物、人身生理	五	全	上	全	上	全
植物、礦物	二	全	上	全	上	全
經濟	一	全	上	全	上	全
土壤	二	全	上	全	上	全
肥料	二	全	上	全	上	全
園藝	二	全	上	全	上	全
普通作物	二	全	上	全	上	全
特用作物	二	全	上	全	上	全
牛、馬、羊、豚、家禽	二	全	上	全	上	全
養蠶	二	全	上	全	上	全
養蠶	二	全	上	全	上	全
作物病虫害	二	全	上	全	上	全
植物病理	二	全	上	全	上	全
林學大意	二	全	上	全	上	全
水產學大意	二	全	上	全	上	全
外國地理	二	全	上	全	上	全
日本地理	三	全	上	全	上	全
文法、作文、讀方	三	全	上	全	上	全
國語、書讀、習字	三	全	上	全	上	全

數	物	氣	化	博	經	法	土	肥	園	農	畜	養	作	林	水	地	英
算術、代數	物理學	無機化學	動物、人身生理	植物、礦物	經濟	土壤	肥料	園藝	普通作物	普通作物	牛、馬、羊、豚、家禽	養蠶	作物病虫害	植物病理	水產學大意	日本地理	文法、作文、讀方
四	二	二	二	五	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三
代數、幾何	全	全	有機化學	動植物生理	經濟大意	土壤	性質用法	園藝	普通作物	特用作物	牛、馬、羊、豚、家禽	養蠶	作物病虫害	植物病理	水產學大意	外國地理	國語、漢文、作文
上	上	上	三	二	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三
幾何、三角、測量	氣候學	氣候學			農業經濟	土壤改良	性質用法	園藝	普通作物	特用作物	牛、馬、羊、豚、家禽	養蠶	作物病虫害	植物病理	水產學大意	外國地理	國語、書讀、習字
三	一	一			三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三



體操	兵式體操	二	全	上	二	全	上	二
實習		期無定			期無定			期無定
計		三〇		三〇				三〇

第九條 每週授業時間數ハ三十時間トシ特ニ養蠶又ハ製茶實習ノ都合ニヨリ之レヲ伸縮スルコトアルモ十八時間ヨリ短縮セサルモノトス

休憩時間ハ教授時間毎ニ十分正午ニ於テ三十分乃至一時間トス

第十條 實習ヲ共同單獨ノ二種ニ分チ共同實習ハ教員自カラ生徒ヲ率テ技術ヲ教授シ單獨實習ハ生徒自身ノ考案又ハ教員ノ指導ニヨリ各自支持ノ地ニ就テ實習ヲ操ラシムルモノトス

第十一條 養蠶實習ハ第二學年及第三學年生徒ニ課ス但シ養蠶期中ト雖トモ餘暇アルトキハ他ノ實習ニ從事セシム

第三章 入學在學退學

第十二條 生徒ノ入學ハ每學年ノ始メニ於テ之ヲ許ス

但時宜ニヨリテハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十三條 入學ヲ許スヘキモノハ左ノ各款ニ該當スルヲ要ス

- 一 品行端正ニシテ射カラ實業ヲ執ラントスル志望確實ナルモノ

一 年齡十四年以上ノ者

一 身體強健ニシテ制規ノ課程ヲ修ムルニ足ルヘキ者

一 修業年限四ケ年ノ高等小學校卒業ノ者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ入學試験ニ合格シタル者

第十四條 修業年限四ケ年ノ高等小學校卒業ノ者ハ他ノ入學志望者ニ先立入學スルコトヲ得

但應募者ノ數募集人員ニ超過スル時ハ讀書作文算術地理歴史理科ノ六科目ニ就キ撰抜試験ヲ行フコトアルヘシ

第十五條 第一學年ノ入學試験ノ科目及程度ハ左ノ如シ

- 一 讀書 漢字交リ文
- 二 作文 漢字交リ文及書簡文
- 三 算術 四則分數小數諸等單比例複比例利息算求積
- 四 歴史 日本歴史ノ概要
- 五 地理 日本地理ノ概要
- 六 理科 物理化學博物ノ大意
- 七 圖畫 自在畫



第十六條 第二級以上ノ入學ヲ許スヘキモノハ第十三條ニ準シ相當年齡ニ達シ且ツ其前級ノ教科目ノ試験ニ合格シタル者ニ限ル

第十七條 入學ヲ許スヘキ生徒ノ人員及入學試験ノ期日等ハ生徒募集ノ都度新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第十八條 半途退學シタル者ニ再入學ヲ許ストキハ退學當時ノ原級ニ編入スルモノトス但シ一學年以上ヲ經過シタルモノハ試験ノ上相當ノ學級ニ編入スルモノトス

第十九條 入學志願者ハ左式ノ願書及履歷書ヲ差出スヘシ其願書及履歷書ハ入學志願者自ラ之レヲ認ムヘシ

入學願書式 (用紙美濃紙)

入學願書

某儀(入學志願者ノ名)御校へ入學志願ニ付御許可被成下度御規則等堅ク相守可申候依テ別紙履歷書相添此段願上候也

年月日

何府何國郡市町村何番地居住

(寄留ナレハ寄留地ヲモ記入スヘシ)

何府華士族平民離子弟

入學志願者 何

某印

全全

有父母後見人 何

某印

静岡縣農學校長何某殿

履歷書式 (用紙美濃紙)

學業履歷書

住所

族籍

何

某

何年何月生

一 何年何月何府縣何郡(市)何町村立(私立)何々小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科(修業年限何ケ年)若クハ高等小學校ノ教科(修業年限何ケ年)卒業又ハ其第何學年修了

一 何年何月何地公私立學校ニ於テ何學科卒業若クハ其第何年期修了

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何地ニ於テ何某ニ就キ何學修業  
右之通りニ候也

年月日



第二十條 入學許可ヲ得タル者ハ左ノ保證書ヲ差出スヘシ

保證書式 (用紙美濃紙)

保證書

右

某

印



何府何國何市何町何番地居住

(寄留ナレハ寄留地ヲモ記入スヘシ)

何府縣華士族平民誰子弟等

何

某

何年何月生

右者今般御校へ入學被差許候ニ付テハ御規則等堅ク爲相守且本人在學中其一身ニ關スル事件ハ一切私共ニ於テ引受可申依テ保證書如斯候也

靜岡縣何國何郡何町村何番地居住

何府縣華士族平民

保證人 何

某印

年月日

全全

靜岡縣農學校長何某殿

保證人 何

某印

第二十一條 保證人ハ二名ニシテ左ノ各項ニ適合スルモノニ限ル若シ不適當ト認ムルトキハ之レヲ改メシムヘシ

- 一 現ニ靜岡縣下ニ居住シ相當ナル家計ヲ立ツル者
  - 二 丁年以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ且ツ治産ノ業ヲ受ケサルモノ
  - 三 父兄後見人親族若クハ父兄後見人ニ代リ生徒監督ノ責ヲ負フニ足ルヘキ者
- 第二十二條 保證人改姓名改印若クハ居住ヲ轉スル等ノコトアルトキハ其旨速ニ本校ニ届出ツヘシ

第二十三條 保證人死亡若クハ第二十一條ノ規定ニ變更ヲ生スルトキハ直ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘテ保證書ヲ差換フヘシ

第二十四條 生徒在學中ハ其自宅ヨリ通學シ得ル者ノ外ハ總テ寄宿舎ニ入舎セシム但シ止ムヲ得サル事情アリテ其親族又ハ保證人ノ宅ヨリ通學ヲ願出ツル者アルトキハ學校長之レヲ審査シ不都合ナシト認ムルモノニ限り特ニ許可スルコトアルヘシ

第二十五條 通學ヲ許可シタル生徒ト雖トモ實習上ノ都合ニ依リ一定ノ季節間寄宿舎ニ入舎セシ



ムルコトアルヘシ

第二十六條 通學生徒病氣其他ノ事故アリテ欠席スルトキハ三日以内ニ保證人ニ於テ其ノ理由ヲ詳記シ届出ツヘシ

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一箇年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者(三十五年告示第二百三十八號ヲ以テ改正)

第二十八條 生徒病氣又ハ止ムヲ得サル事故アリテ半途退學セントスル者ハ其事由ヲ具シ保證人二名連署ヲ以テ學校長ニ願出ヘシ

但シ病氣ニ罹リタルモノハ醫師ノ診案書ヲ添フヘシ

第四章 試驗進級及證書

第二十九條 生徒學業ノ進否習熟ノ度ヲ檢定シ之ヲ教授上ノ參考ニ供シ又ハ卒業ヲ認定スルカ爲メ各教科目ノ試験ヲ執行スヘシ

第三十條 試験ヲ分チ夏季試験冬季試験及學年試験ノ三トナシ夏季試験ハ夏季休業前ニ冬季試験

ハ冬季休業前ニ各其期間履修セル科目ニ付執行シ學年試験ハ每學年末ニ於テ其學年中ニ履修セル科目ニ付執行スルモノトス

第三十一條 試験ノ評點ハ各教科目壹百ヲ以テ定點トス

但シ修身科ニ於テハ操行ヲ參照シテ得點ヲ定メ實習科ニ於テハ勤惰ヲ參照シテ之レヲ定ムルモノトス

第三十二條 試験ニ欠席シタル者ハ零トス但不得止事情アリテ試験ニ欠席シタルモノハ教員會議ノ評定ニヨリ試験ヲ執行スルコトアルヘシ

第三十三條 學年試験ノ評點ハ各教科目冬季及夏季試験ノ平均評點ト學年試験ノ得點ノ和ヲ二除シテ之レヲ定メ之レニヨリテ得タル各教科目得點ヲ通算平均セルモノヲ總平均點トス

第三十四條 學年試験ニ於テ各教科目ノ評點四十五點以上總平均六十點以上ニ達シタルモノヲ及第トス

但シ實習科ニ限リ評點六十點以上ニ達セサレハ落第トス

第三十五條 左ノ一ニ該當シタルモノハ平素ノ成績ヲ考ヘ教員會議ノ評決ニ依リ次學年ノ始メニ於テ追試験又ハ再試験ヲ執行スルコトアルヘシ

一 疾病又ハ止ムヲ得サル事故アリテ學年試験ニ於テ全學科又ハ數學科ヲ欠席シタル者



二 學年試驗評點二科目以下ノ不合格アルモ其他ノ教科平均點數七十點以上ヲ得タルモノ  
追試驗ハ欠席ニ係ル學科再試驗ハ不合格ニ關スル學科ニ就キテ之ヲ行フモノトス  
但シ追試驗ヲナシタルモノニハ再試験ヲ行ハス

第三十六條 生徒ノ進級ハ學年試驗ノ評點ニヨリ每學年末之レヲ行フ

第三十七條 第一學年及第二學年ノ學年試驗評點ニ及第點ヲ得タル者ニハ一號書式ノ修業證書ヲ第  
三學年ノ學年試驗評點ニ及第點ヲ得タルモノニハ二號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

一號書式

二號書式

修業證書
族籍 何 某
生年月 某 年 月 日
静岡縣農學校第何學年ノ課程ヲ修業 セシコトヲ證ス
年月日
静岡縣農學校

第五章 授業料

卒業證書
族籍 何 某
生年月 某 年 月 日
静岡縣農學校ノ教科 <sup>修業年限</sup> 三ヶ年ヲ履修シ 其ノ業ヲ卒フ仍テ此證書ヲ授與ス
年月日
静岡縣農學校長姓名印
第 號

第三十八條 本校生徒授業料ノ額ハ一ヶ月金五拾錢トス

第三十九條 授業料ハ總テ生徒ノ保護者事故アル場合ハ保證人ヨリ之ヲ徴收スルモノトス

第四十條 徴收期ハ毎月十五日トシ生徒保護者ヨリ學校ヘ納入スルモノトス當日休業ニ相當スル  
トキハ其翌日トス

但シ數ヶ月分ヲ一時ニ前納スルモ妨ケナシ

第四十一條 臨時入學ヲ許可シタル者ハ其時期十五日前ニ係ル時ハ該月分ノ全額ヲ徴收シ十六日  
後ニ係ルトキハ該月分ノ半額ヲ徴收スルモノトス

第四十二條 退學ヲ許可シタル者ハ其時期十五日前ニ係ル時ハ該月分半額ヲ徴收シ十六日後ニ係  
ル時ハ該月分ノ全額ヲ徴收スル者トス

第四十三條 生徒自己ノ都合又ハ疾病忌引等ニヨリ休業スルモノニ付テハ授業料ヲ免除セサルモ  
ノトス

第四十四條 學校ノ都合ニヨリ連續三十日以上休校スル場合ハ該月ニ相當スル授業料ノ半額以內  
ヲ免除スルコトアルヘシ

第六章 特待生

第四十五條 生徒獎勵ノタメ品行端正學業優等ノ者五名以內ヲ撰拔シテ一學年ヲ限り特待生トナ



スコトアルヘシ

但シ特待生ハ授業料ヲ免除スルモノトス

第四十六條 特待生ヲ置カントスルトキハ學校長職員會議ニ付シ其ノ性行學力ノ成績ヲ具シ知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ行フモノトス

第四十七條 特待生ニシテ品行不良學業懈怠等ノコトアルトキハ學校長ハ職員會議ニ付シ知事ノ許可ヲ受ケ其待遇ヲ取消スヘシ

第七章 生徒心得

第四十八條 本校生徒ハ修業僅カニ數年ニシテ農事改善ノ重任ニ當ルヘキ者ナレハ躬カラ農家ノ良習ヲ執リ質素ヲ旨トシ實地研磨以テ勞働ニ耐ユルノ習慣ヲ養成シ只管學業ヲ勉ムヘシ

第四十九條 生徒ハ固ク經倫ノ道ヲ守リ威重以テ己ヲ修メ順良以テ上ニ奉シ信愛以テ下ニ接シ學友互ニ交誼ヲ厚クシ淳朴ノ校風ヲ養成スヘシ

第五十條 長上ニ對シ禮儀ヲ盡スヘキハ勿論同學友タリト雖モ先進後進ノ間秩序禮節ヲ正クスヘシ

第五十一條 諸般ノ法規ヲ遵守シ命令告諭ニ服從シ決シテ違背忌避スヘカラス

第五十二條 政事及時事ニ關シ敘述ヲ爲シ又ハ偏黨事ヲ謀リ風紀ヲ紊シ靜謐ヲ害スルノ所爲アル

ヘカラス

第五十三條 學校及寄宿舎ニ於テ秩序ヲ破リ規律ヲ紊シ風紀安寧ヲ害スルノ虞アル圖書新聞紙雜誌等ヲ所持スヘカラス

第五十四條 飲食起居ヲ慎ミ身體ノ健全ヲ計ルヘシ

第五十五條 金錢ノ貸借ヲ爲スヘカラス

第五十六條 實習中ハ必ス相當ノ農服ヲ着用スヘシ但農服ハ木綿筒袖股引又ハ「ツボン」ノ類トス

第五十七條 農具ヲ使用セル後ハ必ス清潔ニ掃除シ受持教員ノ檢閲ヲ乞フヘシ若シ使用中誤テ損傷ヲ生セシトキハ其旨速ニ届出ツヘシ

第五十八條 茲ニ掲載セサル事項ト雖モ苟モ生徒ノ本分ニ反シ學校ノ体面ヲ汚スヘキ所業ヲナスヘカラス

第八章 懲戒及賠償

第五十九條 校規ヲ犯シ又ハ命令告諭ニ違背シ之レヲ訓戒スルモ尙悛メサルモノアルトキハ其輕重ニ應シテ懲戒スヘシ

但シ懲戒ハ單ニ違犯ノ形迹ニノミ拘ハラズ德義ニ其キ處斷スルモノトス



- 一 戒飭
- 二 禁足若クハ留置
- 三 停學
- 四 放校

前項第二第三第四ノ處分ハ學校長職員會議ニ付シ決行ス但シ停學ノ處分ハ知事ニ申報シ放校ノ處分ニ就テハ豫メ知事ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第六十一條 學校ノ物品ヲ亡失毀損シ若クハ汚染シタル者ハ之レヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第六十二條 生徒ヲ懲戒放校ニ處シタルトキハ之レヲ校內ニ揭示シ及其父兄保證人ニ告知スヘシ

第九章 生徒寄宿舎規定

第六十三條 晨起就寢自修食事外出等ノ時間及其他告知スヘキコトハ其時々揭示ス

第六十四條 寄宿舎生徒ハ殊ニ言行動作ヲ慎ミ友愛親和ヲ專ラトシ且攝生ニ注意スヘシ

第六十五條 室内ハ總テ清潔ヲ旨トシ居常掃除及器物ノ整頓ニ注意シ且毎週一回各室ノ大掃除ヲナスヘシ

第六十六條 貸與ノ器具ハ丁寧ニ取扱ヒ毀損セサル様注意スヘシ

第六十七條 圖書什器其他所有物ハ何物タリトモ舎監ノ命ニ應シ其檢閲ニ供スヘシ

第六十八條 外出時間外ニ外出ヲ要スル時ハ保證人若クハ父兄其事由ヲ詳記シタル願書ヲ差出シ舎監ノ許可ヲ受クヘシ但シ本文ノ手續ニ依リ難キ事實アルモノハ其旨舎監ニ申出許可ヲ得テ外出シ歸舎ノ際必ス保證人若クハ父兄ノ證書ヲ持參スヘシ

第六十九條 父母親戚ノ病氣又ハ其他止ムヲ得サル事故アリテ臨時外宿又ハ歸郷セントスルモノハ保證人又ハ父兄ヨリ願書ヲ差出シ學校長ノ許可ヲ受クヘシ但シ緊急ノ事件等ニシテ本文ノ手續キテ經ル猶豫ナキモノハ先ツ舎監ノ承認ヲ得テ外宿或ハ歸郷シ歸舎ノ上ハ保證人或ハ父兄ヨリ理由書ヲ差出スヘシ

第七十條 病氣ノ者ハ醫師ノ診斷ニヨリ歸郷若クハ外宿セシムルコトアルヘシ

第七十一條 病氣ニテ外宿療養セントスルモノ若クハ通學セントスルモノハ保證人或ハ父兄ヨリ日數ヲ定メ且醫員診斷書ヲ添ヘタル願書ヲ差出シ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第七十二條 寄宿生徒來訪人ノ而會ハ應接所ニ於テスヘシ

第七十三條 自修時間中ニ遵守スヘキ事項左ノ如シ

- 一 各自其坐位ニツキ他人ノ坐位ヲ犯スヘカラス
- 一 自修時間ハ專ラ課業ニ勵精シ舎外ニ出テ或ハ他室ニ入ルヲ許サス
- 一 點燈後ハ音讀ヲ許サス



第七十四條 生徒ハ毎朝第一鈴ニテ起床シ第二鈴ニテ服裝ヲ正シ舍前ニ整列シ舍監ノ點檢ヲ受ケ第二鈴ニテ就寝スヘシ

第七十五條 毎朝點檢後ハ寢具ヲ整頓シ掃除ヲ爲スヘシ

第七十六條 就寝後ハ直ニ燈火ヲ滅シ放談其他就眠ノ妨害トナルヘキ舉動ヲナスヘカラス

第七十七條 食堂ニ於テ遵守スヘキ事項左ノ如シ

- 一 食事號音ニテ靜ニ食堂ニ入り指定ノ坐位ニ就クヘシ
- 二 喫食中ハ常ニ容儀ヲ正シシ務メテ靜肅ヲ旨トスヘシ
- 三 食事時限外ハ猥リニ食スルヲ許サス

第七十八條 人員點檢ニ於テ遵守スヘキ事項左ノ如シ

- 一 點檢ヲ分ツテ朝點檢夕點檢臨時點檢ノ三トシ舍監之ヲ行フ
- 二 朝點檢ハ毎朝起床後十分時夕點檢ハ毎夕自修時限ノ終臨時點檢ハ臨時之レヲ行フ
- 三 點檢ノ際ハ總テ寄宿前ニ整列スヘシ
- 四 點檢ノ際病氣ニテ整列シ難キ者アルトキハ其旨舍監ニ届出ヘシ

第十章 生徒學費

第七十九條 生徒ノ學費ハ總テ自辨トス

第八十條 寄宿生徒學費出納ハ左ノ事項ニヨルヘシ

- 一 生徒ノ學費ハ父兄若クハ保薦人ニ於テ學校長ノ指示シタル者ニ預ケ入ルモノトス
- 二 生徒ハ學費檢閱帳ヲ製シ金員ノ支出ヲ要スルトキハ物品ノ購求ニ付テハ其物品ノ品質數量代價(代價ヲ豫知シ難キモノハ見積代價)其他ノ支出ニ付テハ其件事由ヲ明記シ舍監ノ檢印ヲ受クヘシ
- 三 生徒預ケ金ヲ引出サントスルトキハ學費檢閱帳ヲ銀行等ニ持參需用ノ金額ヲ請求スヘシ
- 四 舍監ノ檢閱ヲ經タル金員ヲ支出シタルトキハ生徒ハ物品ノ購求ニ付テハ其物品及受取證ヲ其他ノ支出ニ付テハ受取證ヲ舍監ノ檢閱ニ供スヘシ
- 五 舍監ハ學費ノ支出ヲ調査シ必要ト認ムルトキハ銀行等預金通帳引出金額ニ檢閱濟ノ證印ヲナスヘシ
- 六 生徒歸郷ノトキハ必ラス學費預金通帳ト學費檢閱帳トヲ持參シ父兄ノ檢閱ヲ受クヘシ

參觀人心得

- 一 參觀ヲ乞フ者ハ參觀人名簿ニ族籍姓名ヲ記載シ係員ノ指揮ヲ俟ツヘシ
- 二 參觀人教室及實習場ニ於テハ受持教員ノ指揮ヲ受ケ授業ノ妨害トナラサル様注意スヘシ
- 三 總テ風紀ヲ亂シ若クハ授業ノ妨害トナル舉動アリト認ムルトキハ參觀ヲ謝絶スヘシ



四 本校ノ狀況又ハ實習地試作等ニツキテ質議ヲ要スルコトアル時ハ授業後受持教員若シハ校長ニツキ之レヲ質スヘシ

●訓令第十一號 (明治三十四年三月二十日)

縣立學校 (師範學校ヲ除ク)

縣立學校長職務規程左之通相定ム

縣立學校長職務規程

第一條 學校長ハ職員ノ進退ヲ具申スルコトヲ得但奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル教諭ノ進退ニ付キテハ意見ヲ具シテ縣知事ニ上申スルコトヲ得

第二條 左ノ事項ハ學校長之ヲ專行スヘシ但第四號乃至第六號ノ事項ハ施行後一週日以内ニ縣知事ニ報告スヘシ

一 教員ノ學科擔任及事務分掌ヲ定メ及事務員ノ分掌ヲ命スル事

二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クル事

三 雜給支辨ノ雇員以下ノ進退ニ關スル事

四 職員以下ノ除服出仕及諸暇ニ關スル事

五 生徒募集ニ關スル事但募集人員ハ豫メ縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ(三十四年訓令第二十四號ヲ以テ改正)

六 經伺ノ暇ナキ緊急ノ場合ニ於テ一日間臨時休業ヲ爲ス事

第三條 左ノ事項ハ學校長ニ於テ縣知事ノ許可ヲ經テ後施行スヘシ

一 職員以下出張ニ關スル事

二 臨時休業スル事

三 一泊以上ノ旅行ニ生徒ヲ引率スル事

四 右之外例規ナキ重要ノ事件ヲ處置スル事

第四條 學校長ハ生徒ニ退學又ハ停學ヲ命シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ縣知事ニ報告スヘシ

### 第五章 統計及報告

●訓令甲第十八號 (明治三十四年五月十五日)

郡役所 市役所 縣立學校

學事年報材料報告規程左之通定ム

學事年報材料報告規程

第一條 郡市長ハ毎統計年度ノ調査ニ依リ翌年度五月三十一日限左ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ但シ第十九號ノ事項ハ同十月十五日限トス



- 一 郡市内學事ノ狀況  
學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ記述スヘシ
- 二 學齡兒童  
就學ニ關スル規則施行ノ狀況及學齡兒童統計上ノ増減ノ事由ヲ記述スヘシ
- 三 小學校  
學校ノ設備、編制、修業年限及補習科ニ關スル狀況、公立小學校ノ配置適否ノ狀況、代用私立小學校ノ狀況、教員ノ需要供給及待遇ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ
- 四 幼稚園  
幼稚園ノ設備、幼兒保育ノ狀況ヲ園毎ニ記述スヘシ
- 五 盲啞學校  
學校ノ設備、授業ノ狀況、生徒卒業後ノ狀況ヲ學校毎ニ記述スヘシ
- 六 中學校  
學校ノ設備、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者（從前ノ教育、年  
齡、父兄ノ職業）半途退學者（人員  
事由）補習科ニ關スル狀況ヲ學校毎ニ記述スヘシ
- 七 高等女學校

- 八 實業學校  
學校ノ設備、入學者（從前ノ教育、年  
齡、父兄ノ職業）半途退學者（人員  
事由）ニ關スル狀況ヲ學校毎ニ記述スヘシ  
業學校ニ在リテハ學校ト實業トノ關係ヲ記述スヘシ
- 九 各種學校  
學校ノ設備、授業ノ狀況ヲ學校毎ニ記述スヘシ
- 十 圖書館  
閱覽人ノ狀況、閱覽圖書ノ種類及其閱覽人ヲ各種類毎ニ分チ館毎ニ記述スヘシ
- 十一 學校衛生  
學校清潔方法施行ノ狀況、學校醫ノ視察及生徒又ハ兒童ノ身體檢査ノ狀況、傳染病豫防及消毒ニ關スル施行ノ狀況、生徒又ハ兒童ノ健康ノ狀況ヲ學校ノ種類ニ依リ區別シテ記述スヘシ  
又幼稚園ニ於ケルモノ之ニ準ス但シ中學校、高等女學校、實業學校（實業補習學校ヲ除ク）ハ學校毎ニ記述スルヲ要ス



- 十二 小學校教員講習  
教員講習ノ狀況ヲ記述スヘシ
- 十三 教科用圖書  
教科用書ノ適否、需要供給ノ關係、其ノ他教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記述スヘシ
- 十四 郡會及市町村會學事ニ係ル議事ノ概況ヲ記述スヘシ
- 十五 教育會  
組織並ニ事業ノ概況ヲ記述スヘシ
- 十六 學事關係職員及學事視察  
學事關係職員ノ狀況ヲ記述シ又郡視學等ノ學事ヲ視察シタル狀況ヲ記述スヘシ
- 十七 學事ノ獎勵  
學事獎勵ノ狀況ヲ記述スヘシ
- 十八 將來學事施設上須要之件
- 十九 公學費及資產  
公立學校等ノ歲出入、學校基本財產及其ノ積立ノ方法其ノ他學校等ノ維持ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ

以上ノ外學事及學事經濟上ニ關シ特ニ重要ナル事項アルトキハ之ヲ記述スヘシ又以上取調事項中計數ニ關シテハ其ノ増減ノ事由ヲ記述スルヲ要ス

第二條 郡市長ハ每統計年度ノ調査ニ依リ翌年度五月三十一日限別表様式ニ從ヒ左ノ諸表(第十四號表)ヲ知事ニ差出スヘシ但シ第十一號表及第十二號表ハ十月十五日限トス(三十五年訓令甲第十五號ヲ以テ改正)

- 一 公私立小學校表
- 二 公私立盲啞學校及各種學校表
- 三 公私立中學校及高等女學校表
- 四 公私立實業學校表
- 五 公私立幼稚園表
- 六 公私立圖書館表
- 七 學校醫表
- 八 學級別市町村立私立小學校表
- 九 加設科目ヲ課スル市町村立私立小學校表
- 十 市町村立小學校教員俸給別表
- 十一 公學費表







- 一 本表ハ郡ニ在リテハ町ノ部、村ノ部ヲ各別表トナスヘシ
- 二 學校ハ年度末現在ノ者ヲ尋常小學校、尋常高等小學校、高等小學校ノ三類ニ別チ列記スヘシ分教場ハ本行ノ次行ニ各別ニ掲クルヲ要ス但シ設備上一時ノ假設ニ止マルモノハ此限ニアラス
- 三 尋常高等小學校ニ係ルモノハ一校ニ二行ヲ充テ尋常科高等科ヲ各一行ニ掲クヘシ
- 四 小學校施行規則第三十四條ニ依ル學校(半日小學校)及代用私立小學校ハ「半」「代」ノ略符ヲ以テ校名ノ傍ニ標記スヘシ補習科ノ設ケアル學校モ之ニ準シ其ノ正教科ノ時間内ニ教授スルモノハ「正補」其ノ時間外ノモノハ「外補」ノ略符ヲ附スヘシ
- 五 學校數ハ學校ノ種類毎ニ之ヲ統計シテ各末行ニ其ノ計數ヲ掲クヘシ
- 六 修業年限ハ年度内三月一日ノ現在ニ依リ高等小學校又ハ尋常高等小學校高等科ニ限リ掲ケ「二」「三」或ハ「四」ト記スヘシ但シ分教場ニ在リテハ尋常高等ヲ間ハス其最高學年マテノ修業年數ヲ朱書スヘシ
- 七 學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ但シ分教場ノ學級數ハ本校ニ計入スヘカラス(一時ノ假設ニ止マル分教場ハ本校ニ計入ス)補習科ノ學級ニシテ正教科ノ兒童ト合シテ編編制セルモノハ補習科ノ欄ニ掲クヘカラス其正教科ノ時間内ニ教授スルモノハ適宜ノ符號ヲ以テ之ヲ標スヘシ

- 八 教員ハ年度末ノ人員(公立小學校ニ在リテハ休職者ヲ除ク)ヲ男女ヲ左右ニ別チテ掲ク尋常高等小學校ノ教員ニシテ其受持兩教科ニ跨ル者ハ教授時數ノ多キ方ニ掲ク其ノ時數同シキトキハ高等ノ部ニ掲クヘシ市町村立小學校教員ニシテ他ヨリ兼ヌル者ハ朱書ヲ以テ掲クヘシ又代用教員中小學校教員免許狀ヲ有スル者アルトキハ適宜ノ符號ヲ附シ區別シテ掲クヘシ
- 九 兒童以下ノ五欄ハ明治三十四年縣令第三號學齡兒童就學ニ關スル細則第三號表(丙)ニ基キ男女ヲ左右ニ別チ掲クヘシ
- 十 授業料ニ關スル事項ハ年度内三月一日ノ現在ニ依リ其ノ授業料月額ハ認可ヲ受ケタル定額ヲ掲ケ小學校令施行規則第七十九號ノ規定ニ依リ授業料ヲ増徴スルモノハ適宜ノ符號ヲ付シテ併セ掲クヘシ但シ補習科ニ係ルモノハ之ヲ掲ケ又ハ計入スヘカラス
- 十一 年度内三月一日ニ於ケル授業料ハ同日現在兒童ノ納ムヘキ授業料月額ノ總計及ヒ其ノ人員ヲ掲クヘシ
- 十二 學級以下諸欄ノ計數ハ之ヲ統計シテ附表ニ掲クヘシ
- 十三 町村組合、町村學校組合又ハ其ノ區ニ於テ設置スル小學校ニ係ルモノハ其ノ學校ノ所在











備考

説明

- 一 學校ハ年度末ノ現在ニ依リ各校各別ニ掲クルモノトシ一學校ニシテ本校、分校、附屬學校等ノ區分アルモノハ又各別ニ掲クヘシ
- 二 學校ノ種別ハ盲啞學校、各種學校ノ別ヲ掲ケ各種學校ニ係ルモノハ其ノ學校ノ目的及學科程度等小學校ニ準スヘキモノ、中學校ニ準スヘキモノ、高等女學校ニ準スヘキモノ及其他ノ四類ニ就キ更ニ其ノ別ヲ掲クヘシ
- 三 設立ノ區別ハ郡市町村立私立ノ區別ヲ掲クヘシ
- 四 位置ハ國郡市町村名ヲ掲クヘシ
- 五 創立年月ハ其ノ設立ノ許可又ハ認可ヲ得タル年月ヲ掲クヘシ但シ公立學校ニシテ其ノ設立維持者ヲ變更シタルモノハ始メテ其ノ學校ノ設立シタル年月ヲ掲ク二校以上ノ合併シテ新ニ一校ヲ設立シタルトキ又ハ學校ノ種類ヲ變更シタルトキハ其ノ時ノ年月ヲ掲クヘシ
- 六 學科ハ年度内三月一日ノ現在ニ依リ二種以上ノ學科課程ノ設ケアルモノハ各別ニ掲ケ盲啞學校ニ在リテハ技藝科普通科ノ別ヲ示シ各種學校ニ在リテハ其ノ授クル學科目ヲ列記スヘシ但シ五科目以上ヲ授クルモノハ其ノ重ナル五科目ヲ掲ケ其ノ他ハ外幾科目ト附記スヘシ

- 七 學級數、生徒數ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ但シ二種以上ノ學科課程ノ設ケアルモノハ區別シテ掲クヘシ又盲啞學校ニ在リテハ生徒中普通科技藝科ヲ兼テ修ムル者ハ主タル一方ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シテ掲クヘシ卒業者ノ掲ケ方ハスベテ之ニ準ス
- 八 教員ハ年度末ノ人員(公立學校ニ在リテハ休職者ヲ除ク)ヲ掲クヘシ但シ公立學校教員中其ノ學校職員若クハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ區別シテ掲クヘシ又外國人ハ便宜國名ヲ附記スヘシ
- 九 授業料及經費ハ私立學校ニ係ルモノノミヲ掲ケ公立學校ニ係ルモノハ之ヲ掲クヘカラス
- 十 學校長ノ欄ニハ學校長ヲ置カサル學校ニ就キテハ首席教員ヲ掲ケ適宜ノ符號ヲ以テ學校長ト區別スヘシ

第三號表樣式

明治何年度		三、公立中學校及高等女學校表		何 郡 (市)	
科學	稱名	年修業 限	置位	年創立 月	學校 長氏
	數級學		教員		
					有資格
					無資格























- ニ係ルモノハ掲クヘカラス
- 三 英語ノ欄ニハ單ニ英語ヲ課スル學校ヲ掲ケ英語ト其ノ他ノ科目トヲ併セ課スル學校ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 四 補習科ノ欄ニハ補習科ノ教科目中ニ本表ニ於テ謂フ所ノ加設科目アルモノヲ掲クヘシ
- 五 私立小學校ニ係ルモノハ區別シテ朱書スヘシ

第十號表樣式

明治何年度 十、市町村立小學校教員俸給別表 何 郡 (市)

種 別	月 俸					
	六	七	八	九	拾	拾壹
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
本科正教員						
准教員						
專科正教員						
本科正教員						
准教員						
專科正教員						

人 別	額			
	拾參	拾四	拾六	拾八
女男	女男	女男	女男	女男
貳拾圓				
貳拾貳圓				
貳拾四圓				
貳拾七圓				
參拾圓				
參拾五圓				
四拾圓				
四拾五圓				
五拾圓				























- 之ニ入ルマテハ充分乾燥シ了ルヲ度トスヘシ
- 二 教室及寄宿舎ニハ其人員ニ應シ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺ヲ備ヘ紙片其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシムヘカラス  
紙屑籠及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ
- 三 寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用ル履物ヲ禁スヘシ但止ムヲ得サル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラサルコトヲ務ムヘシ
- 四 靴ノ儘昇降スル校舎ノ出入口ニハ人員ニ應シ靴拭ヲ備フヘシ
- 五 寢具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆寢衣等ハ務メテ洗濯セシムヘシ
- 六 便所ノ尿溝及注壁等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ圓房ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ糞箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設クヘシ
- 七 糞壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿俺酸加里、粗製格魯兒滿俺(以上百倍乃至三百倍)硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉、灰等ヲ撒布シ期ヲ愆ラス汲取ラシムヘシ
- 八 食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭、煙氣又ハ湯氣ノ鬱滞ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルヘカラス殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓等ヲ拭フヘシ

九 芥棄場ノ不潔物ハ期ヲ愆ラス搬送セシムヘシ

十 下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ

十一 庭園、體操場、遊戯場、簷下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムヘシ

乙 定期清潔方法

定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス

十二 先ツ教室、寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓懸等ヲ外シ敷物ヲ剥キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天井、四壁、床板、廊下等盡ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱湯汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ

十三 簷下、床下等モ手ノ届ク限リ之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及簷廻リハ龍吐水ヲ以テ洗滌スヘシ

十四 寢具、窓懸、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ其洗濯シ得ヘカラサルモノハ先ツ其塵掃ヒ書籍文具ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スヘシ

十五 器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラス  
室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムヘシ



十六 床板、壁面等ニ虧隙アルモノハ此際之ヲ填塞シ風抜穴、煙突等ノ塞煤ハ之ヲ除去スヘシ  
十七 浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所、下水、芥棄場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行フヘシ

丙 浸水後清潔方法

洪水ノタメ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ

十八 水ニ浸サレタル校舎殊ニ寄宿舎ノ建具牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニ依テハ焚火火鉢等ヲ用井テ充分ニ乾燥セシムヘシ

十九 建具、牀板、校具、腰張等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ

二十 浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚渫シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スヘシ但開校後一箇月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スヘシ

二十一 右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スヘシ

●甲第十三號

(明治三十一年四月十三日)

郡役所 市役所 町村役場

明治三十一年勅令第二號ニ基キ郡市町村立學校醫薦舉手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

郡市町村立學校醫薦舉手續

第一條 郡市町村長ハ其郡市町村立學校醫ヲ薦舉スヘシ

第二條 郡市町村長ニ於テ其郡市町村立學校醫候補者ヲ薦舉セントスルトキハ明治三十一年月文部省令第七條ニ依リ相當資格アル醫師ノ氏名住所族籍履歴ヲ詳記シ卒業證書及醫術開業免許ノ寫ヲ添ヘ具申スヘシ

第三條 郡市町村長ニ於テ學校醫ヲ薦舉セントスルトキハ其手當金額ヲ定メ具申スヘシ

第四條 村立學校及人口五千未満ノ町立學校ニ於テ特別ノ事情アリテ學校醫ヲ設置スル能ハサルトキハ町村長其事情ヲ具申スヘシ

第五條 前條ニヨリテ町村長ヨリ具申書ヲ差出シタルトキハ郡長其意見ヲ副申スヘシ

●甲第三十五號

(明治二十六年十月十九日)

郡役所 市役所 町村役場 公立學校

委任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ同官等又ハ同等級内ノ席次ハ俸給額ニ依リ俸給額同シキトキハ任補ノ前後ニ依リ任補ノ日同シキトキハ叙位ノ前後ニ依リ叙位ノ日同シキトキハ前官等又ハ前等級内ノ席次ニ依リ前官等又ハ前官等級内ノ席次ニ依ルコト能ハサルトキハ年長者ヲ上席トスル儀ト心得ヘシ

●訓學第四十一號

(明治二十二年十一月二日)



縣立公立學校職員

明治十五年十月無號達縣立學校職員及町村立學校職員參賀式自今左ノ通心得ヘシ

- 一 新年拜賀 大禮服着用 (通常禮服換用不苦)
- 一 紀元節 前全斷 (前全斷)
- 一 天長節 前全斷 (前全斷)

右當日ハ職員生徒共其校ニ出頭拜賀ノ式ヲ施行スヘシ

但判任官待遇者ハ左ノ書式ニ據リ本廳ヘ賀表ヲ差出スヘシ

料紙ハ大奉書ヲ用 郵送ノ分ハ美濃紙薄葉等ヲ用ユルモ妨ケナシ

四ツ折

年月日	官苗字名	新 年	諸 賀	奉 賀	紀 元	天 長
-----	------	-----	-----	-----	-----	-----

便宜數名連署スルモ妨ケナシ

●縣令第七十號 (明治二十六年十二月二十三日)

教育上ニ關スル事項ヲ講究審查スル爲メ教育會等ヲ開設スルモノ又ハ既ニ之ヲ開設シタルモノハ

其規則ヲ具シ届出テ其評決等顛末ハ開會ノ都度報告スヘシ

但廢止分合並規則ノ改正等ハ本文同様届出ヘシ

●學第七四三號 (明治二十六年十一月十四日)

静岡縣內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒

青年夜學會等ヲ起スモノアルトキハ其規則ハ創設改廢ノ都度届出テシムル様其向ヘ御示達相成度 依命此段申進候也

●縣令第九十九號 (明治三十三年十二月十四日)

私立學校ニ於テ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ教員ニ採用シタルトキハ其ノ年月日及書人ノ 履歷書ヲ具シ遲滞ナク届出ヘシ

●告示第一百二十號 (明治三十四年六月十四日)

中學校令第十二條高等女學校令第十三條及實業學校令第九條ニ依リ教科用書採定ニ關シ認可ヲ稟 申スルトキハ左ノ様式ニ從ヒ教科書表並ニ教科書配當表ヲ添付スルコトヲ要ス

何々學校教科書表

學科目	圖書名	卷冊記	著者名	發行者住	發行	檢定	檢定目的
		號員數	氏名	氏名	年月日	年月日	學 校



備考 檢定ヲ經サル圖書ナルトキハ其圖書一部ヲ添フヘシ

何々學校教科書配當表

(×符アルハ朱書トス)

學科目	學年別				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
何	何書	×何書上	×何書下	何書	何書
何	何書	何書	何書	×何書上	×何書下

備考

- 一 學年別ハ當該學校ノ修業年限ニ依ルヘシ又豫科本科ノ別アルモノハ其別ヲ示スヘシ
- 二 學科目ハ新定若クハ變更ノ圖書アル分ニ限リ掲クルモノトス
- 三 新定若クハ變更ノ圖書ハ配當表ニ黒書シ從前ノ圖書ハ朱書スヘシ但シ從前ノ圖書ニシテ變更ヲ要セサル分ハ適宜ノ符號ヲ附スヘシ
- 四 配當表中ニハ圖書名及卷冊記號ヲ記入スヘシ

●告示第三十三號

(明治二十五年二月二十四日)

師範學校中學校高等女學校教員志望ニシテ當廳ヲ經由試驗檢定ヲ出願セントスルトキハ左ノ例ニ依リ願書ヲ差出スヘシ

- 一 縣立學校職員ニ在リテハ其ノ學校ヲ經由スヘシ
- 二 郡市町村立學校教員ニ在リテハ所轄郡市役所ヲ經由スヘシ
- 三 前二號ノ外ハ明治三十三年三月勅令第三百三十四號教員免許令第五條ノ各號ニ該當スル事實ノ有無ニ關スル本籍地市町村長ノ證明書ヲ添附シ所轄郡市役所ヲ經由スヘシ
- 四 願書ニハ總テ進達願ヲ添附スヘシ
- 五 他府縣ニ於テ受驗セントスルトキハ其旨ヲ記シ願書ニ添附スヘシ

●訓令甲第二十號

(明治二十五年七月十八日)

郡役所 市役所 公立中學校 公立實業學校

學校ニ於ケル紛擾ハ教育上最憂慮スヘキモノタリ學校長ハ平素一層注意ヲ加フヘシ職員ニシテ尙モ生徒ヲ使嗾煽動スルカ如キ行爲アルカ若クハ其行爲ニシテ紛擾ヲ招クノ恐れアリト認メタルトキハ其機ヲ失セス具狀スヘク又生徒ニシテ其本分ヲ忘レ職員ニ對シ反抗ヲ試ミ或ハ同盟休校ヲ爲スカ如キ者アラハ嚴重處分シ以テ校紀ノ振作ヲ務ムヘシ



### 第八編 農商工

#### 第一章 農 事

●縣令第三十一號 (三十五年四月十五日)

苗代田施設ニ關シ左ノ通り定ム

苗代田ハ左ノ項ニ依リ施設スヘシ

- 一 苗代田ハ床地巾四尺以内(尺度曲尺トス以下之ニ準ス)ニシテ溝幅八寸以上トシ長サ適宜短冊形トナスヘシ
- 二 作人ハ苗代田ニ幅三寸以上長一尺以上ニシテ村字番地及氏名ヲ記シタル木札ヲ建設スヘシ

前各項ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第四十號 (明治三十二年七月十一日)

耕地整理工費補助規則左ノ通り相定ム

#### 耕地整理工費補助規則

第一條 耕地整理獎勵ノ爲メ勸業資金ノ利子ヲ以テ其工費ヲ補助ス

第二條 補助金ノ下付ハ一地區全体ノ共同工事ニ限ル

第三條 補助ノ金額ハ畦畔、作道、並ニ敷巾六尺以下ノ溝渠ノ新設變更ニ要シタル工費ノ四分ノ

一 以內トス但設計費及敷地買上費ハ補助ノ限リニアラス

第四條 補助金ノ下付ヲ受ケントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ毎年九月限り當廳ノ許可ヲ請フヘシ

其許可ヲ受ケタル後變更ヲ要スル事項アルトキ亦同シ

- 一 整理地區所屬ノ郡町村字名
  - 二 整理地區内土地ノ地種地目及各種目毎ノ反別筆數
  - 三 設計及豫算書
  - 四 現形圖及整理豫定圖
  - 五 工事着手及成工ノ時期
  - 六 整理施行ニ關スル申合規約
- 整理工事ニテ年度以上ニ亘ル場合ハ前項各號ノ事項ハ其年度ノ區別ニ依リ記載スヘシ
- 第五條 工事ニ着手シタルトキハ十日以内ニ其旨届出ヘシ
- 第六條 工事竣成シタルトキハ毎年二月限り左ノ事項ヲ具シ補助金額ノ指定ヲ受クハシ
- 一 工事竣成ノ年月日
  - 二 出來形精算帳



三 整理圖

四 整理前後ニ於ケル反別並ニ筆數比較表

第七條 補助金ノ請求ハ毎年三月二十五日限リトス

附 則

第八條 明治二十八年三月三縣令第十九號哇畔改良費貸與規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第九條 哇畔改良費貸與規則ニ依リ貸與ヲ受ケタル債務者ニシテ未タ其債務ヲ完済セサルモノハ

明治三十三年一月限リ本則第六條第二號出來形精算帳ヲ添ヘ第三條ニ依リ補助ヲ受クヘキ工費

ノ四分ノ一以內ニ常ル金額ノ付與ヲ請フコトヲ得

前項ニ依リ許可ヲ受ケタルモノハ指令到達ノ日ヨリ三十日以內ニ付與ノ金額ヲ扣除シタル殘額

ヲ返納スルモノトス

第十條 明治三十一年四月以降本則施行ノ日迄ニ工事ニ着手シ又ハ成工シタルモノニシテ哇畔改

良費貸與規則ニ依リ貸與ヲ受ケサルモノハ本則ニ準シ補助ヲ請フコトヲ得

●乙第七號 (明治二十七年五月十二日)

郡役所 市役所

米麥作柄及收穫本縣へ報告ノ節増減ノ歩合ヲ算出スルニハ最近五箇年ノ平均ヲ以テ平年ノ收穫ト

見做シ計算スヘシ

明治二十三年<sup>十二</sup>本縣乙第二十號ハ廢止ス

●縣令第十八號 (明治三十二年四月十八日)

明治二十九年五月縣令第五十號害蟲驅除豫防規則左ノ通改正ス

害蟲驅除豫防規則

第一條 明治二十九年法律第十七號害蟲驅除豫防法ニ依リ害蟲ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 螟 蟲

一 浮塵子一名横道ヒ

一 葉捲蟲一名つと蟲

一 粘 蟲

一 地 蠶

第二條 第一條ノ害蟲ノ驅除豫防方法ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

螟 蟲 (稻作ヲ害ス)

一 共同點火法ニ依リ誘殺スルコト

二 捕蟲網ヲ以テ苗代ニ潜伏スル蛾ヲ捕獲スルコト



- 三 螟卵ノ採收ヲ行フコト
  - 四 枯莖及枯穂ヲ摘採スルコト
  - 五 稻株ヲ截斷シ之ヲ堆積肥中ニ混スルカ若クハ燒棄スルコト
  - 六 螟卵ニ寄生スル小糖蜂ヲ保護スルコト
- 浮塵子
- 一 苗代時季ニ捕蟲網ヲ使用スルコト
  - 二 共同注油驅除ヲ施行スルコト
- 葉捲蟲
- 一 壓殺スルコト
  - 二 布袋ヲ附隨セル竹櫛ヲ以テ摘採スルコト
- 粘 蜥 (茶桑ヲ害ス)
- 一 燒殺若クハ捕殺スルコト
- 地 蠶 (蔬菜殺殺類ヲ害ス)
- 一 田圃ノ周圍ニ溝ヲ穿テ遮斷スルコト
  - 二 根際ニ潜伏セル蛹及幼蟲ヲ拾ヒ取ルコト

- 三 作物ニ依リ被害物ヲ燒棄スルコト
- 第三條 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ該田畑作人ハ之ヲ市町村長ニ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ其狀況ヲ急報スヘシ
- 第四條 市町村長ハ前條ノ急報ヲ受ケタルトキハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ  
但作人ニ於テ驅除豫防ヲ行ハサルトキハ郡市長ニ急報スヘシ
- 第五條 郡市長ハ左ニ掲ケル場合ニ於テハ害蟲驅除豫防法第三條第二項第四條第五條第六條ニ據リ處辨スルコトヲ得
  - 一 本規則第四條但書ノ急報ヲ受ケタルトキ
  - 一 害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ
  - 一 害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキ
- 第六條 郡市長ハ前條ニ據リ市町村費ヲ以テ之カ驅除豫防ヲ行フトキハ其都度左ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ
  - 一 害蟲ノ種類
  - 二 郡市町村名



三 被害農作物ノ種類及被害見積反別  
四 被害ノ狀況

第七條 本規則第一條ニ掲クル種類以外ノ害蟲及蟲類以外ノ動物ト雖モ農作ヲ害シ又ハ害スル虞  
アルトキハ作人ハ之ヲ市町村長ニ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ其狀況ヲ急報スヘシ

第八條 害蟲發生シタルトキハ其市町村長ヨリ直チニ隣接市町村長ニ急報スヘシ

第九條 町村農會成立セル地方ニ在ツテハ該農會ニ於テ其成立セサル地方ニ在テハ耕作人ニ於テ  
害蟲驅除豫防規則實施規定ヲ設ケ之レヲ實行スヘシ

前項ノ規定ハ町村長郡長ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ其規定ヲ變更シタルトキ亦全シ

◎縣令第十一號 (明治二十八年二月二十日)

米穀改良組合規則(二十九年縣令第六十七號及三十年同  
第二十一號ヲ以テ各條中更正追加)

第一條 米作地所有者米作人米穀商及精米營業者ハ郡ハ其區域ニ依リ市ハ隣接郡ニ合併シ組合ヲ  
設ケ之ニ加入スヘシ

但創立委員會又ハ組合ハ當廳ノ認可ヲ經テ米作地ニ反歩以下ノ所有者及米作人ヲ組合員外ト  
ナスコトヲ得

第二條 山林原野畑宅地ヲ以テ土地ノ大部分ヲ占メ米作地僅少ナル市町村ニ在リテハ市町村長ヨ

リ其事由ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受ケ前條組合員タルヘキ者ト雖モ組合ニ加入セサルコトヲ得

但町村長ヨリノ具申ノ場合ニハ左ノ書類ヲ添フヘシ

一 山林畑宅地ノ各反別地價調

一 米作人住所氏名各箇ノ米作地反別調

一 町村客圖

第三條 米作地所有者及米作人ニシテ他ノ組合區域内ニ住居スル者ハ其所有地又ハ米作地所在ノ

組合ニ加入スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其地所遠隔不便ニシテ自カラ組合ニ關スル權利義務ヲ行フコトヲ得サルトキ  
ハ其加入セル組合區域内ニ代理人ヲ置キ其人名ヲ組合事務所ヘ届置ヘシ其代理人ヲ變更スルト  
キ亦全シ

一 組合區域以上ニ米作所有地又ハ自作地ヲ有シ若クハ之ヲ借受米作スル者ハ其所在各組合ニ  
加入スルモノトス

第四條 組合ノ組織ニ付テハ米作地所有者米作人米穀商及精米營業者中ヨリ創立委員ヲ設ケ委員  
會ヲ開キ規約ヲ議定シ該會長ヨリ所轄郡役所ヲ經テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 組合ニ於テ施行スヘキ事項ノ概目左ノ如シ



- 一 稻種ヲ選擇スルコト
  - 一 米穀乾燥及精製方ヲ完全ナラシムルコト
  - 一 米穀貯藏法ヲ完全ナラシムルコト
  - 一 俵裝樹量ヲ一定スルコト
  - 一 米穀精製上ノ弊害ヲ矯正シ米俵ノ調査ヲ完全ナラシムルコト
- 第六條 前條ノ外尙組合ニ於テ漸次企劃實行ヲ要スヘキ事項ノ概目左ノ如シ
- 但町村及農會設置ノ郡ニ於テハ本條ノ事業ヲ農會ニ於テ施行スルモ妨クナシ
- 一 試驗苗代場及試驗田ヲ設置シ種子播種栽培肥料等試驗ノコト
  - 一 蟲害豫防驅除法實行ノコト
  - 一 改良農具實驗ノコト
  - 一 牛馬耕排水法畦畔改良普及ノコト
  - 一 溜池及用水路新設改良ノコト
  - 一 此他米作改良進歩上必要ノ事項
- 第七條 組合員ハ組合規約ニ定ムル方法ニ依リ米穀ノ検査ヲ受クヘシ組合員ニシテ米穀ヲ賣却スルトキハ每俵其組合ニ於テ定メタル荷票ヲ貼付スヘシ

- 第八條 組合ハ縣組合ヲ設ケ其事務所ヲ靜岡市ニ置クヘシ其組織權限等ニ付テハ各組合長及組合未設郡市下ノ委員創立委員トナリ委員會ヲ開キ縣組合規約ヲ議定シ該會長ヨリ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 縣組合ハ縣内四分ノ三以上ノ都市ニ於テ組合成立シタルトキハ之ヲ設クルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ組合未設郡市下ノ米作地所有者米作人米穀商及精米營業者ハ縣組合ヘ加入スヘシ
- 第十條 縣組合ハ組合未設郡市下ノ組合員ニ對シ本規則第七條組合規約ニ代ルヘキ検査ノ方法其施行ノ手續同條第二項ニ依リ每俵貼付スヘキ荷票及其貼付ノ方法ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受ケ施行スヘシ
- 第十一條 組合ノ機關一時成立ヲ欠ク等ノ場合ニ於テ組合規約ヲ實行スルヲ得サルトキハ縣組合ニ於テ其實行方法ヲ規定シ當廳ノ認可ヲ受ケ施行スヘシ
- 第十二條 組合員ハ組合及縣組合ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スヘシ
- 但小作米ノ検査ニ係ル費用ハ地主ノ負擔トス尙此他規約ヲ以テ米穀商及精米營業者ノ負擔ニ制限ヲ設ケ且小作人ヲシテ一切ノ負擔ヲ免レシムルコトヲ得
- 第十三條 組合及縣組合規約ニ掲クヘキ事項ノ概目左ノ如シ



- 一 組合ノ名稱及事務所位置
  - 一 組合ノ目的(本規則第五條第六條並其施行方法及本規則第七條ノ検査方法)
  - 一 役員ノ選舉法及其權限
  - 一 會議ニ關スル規程
  - 一 組合員出入ニ關スル手續
  - 一 費用ノ賦課徵收及支出方法
  - 一 違約者ノ處分ノ方法
- 右之外必要ト認ムル事項
- 第十四條 組長及縣組合長ハ各其會議ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ公選シ該會長ハ組合ニアリテハ所轄郡市役所及縣組合ヲ經縣組合ニアリテハ直接當廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十五條 組合會議ノ開閉期日及其場所ハ前以テ所轄郡市役所へ届出縣組合會議ノ開閉期日及場所ハ同様當廳へ届出ツヘシ
- 第十六條 組合及縣組合ハ前々年度ノ事蹟(米穀産額組合人員)及費用決算表ヲ毎年四月組合ハ所轄郡市役所へ縣組合ハ當廳へ報告スヘシ
- 第十七條 本規則第一條第三條第一項第三項第七條第九條第二項ニ違背シタルモノハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 組合規約及縣組合規約ヲ更正加除セントスルトキハ各其會議ニ於テ議員全數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ議決シ該會長ハ組合ニアリテハ所轄郡市役所及縣組合ヲ該縣組合ニアリテハ直接當廳ノ許可ヲ受クヘシ

附 則

第十九條 本規則第四條ノ創立委員ハ戶數ノ多寡ニ應シ各市町村(組合町村ハ組合ヲ以テ一町村ト見做スヘシ)ヨリ一名乃至三名所轄郡市長之ヲ定メ各町村長ハ其町村内市長ハ其市内米作地所有者米作人(第一條及第三條)米穀商及精米營業者ヲシテ郡市長指定ノ期日迄ニ委員ヲ公撰セシメ郡長ニ報告スヘシ其當選ハ投票多數ニ依ル

委員會ハ郡長之ヲ招集シ半數以上ノ委員出席スルトキハ會議ヲ開キ其議決ハ過半數ニ依ル委員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十條 本規則第八條縣組合委員會ハ知事之ヲ招集シ其會議ハ前條第二項ノ例ニ依ル

組合未設ノ郡ニ係ル縣組合創立委員ハ所轄郡長ニ於テ其郡下ノ米作地所有者米作人米穀商及精米營業者ノ内ヨリ二名ヲ公選セシメ縣廳ニ報告スヘシ其當選ハ投票多數ニ依ル

第二十一條 本規則ニ該當スル既設ノ組合ハ此規則第四條創立委員公選ノ手續ヲ爲スヲ要セス



組合會議ニ於テ直ニ規約ヲ議定シ會長ヨリ所轄郡役所ヲ經テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 本規則ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

但本規則第七條ノ規定ハ明治二十八年ノ新穀ヨリ施行スルモノトス

●農第二〇號 (明治二十七年七月二十日)

各郡長宛

米麥等種子ヲ精選スルノ必要ナルハ勿論ノ處各自ニ之ヲ行フハ其手數ヲ厭ヒ兎角行ハレ難キ情況アルニ付自今各町村農會場又ハ社寺學校其他便宜ノ場所ニ於テ日時ヲ定メ各農家ヲシテ播種用ノ種子ヲ持參セシメ老農ニ依囑シテ適當ノ選種ヲ爲サシメ候様農會勸業會等(該會無之町村ハ適宜町村長及老農等)ニ訓諭シ之レカ實行ヲ計ラルヘシ

●告示第百二號 (明治三十三年五月二十八日)

静岡縣農事試驗場ヲ左記ノ地ニ設置ス

安倍郡豊田村曲金

●告示第百九十九號 (明治三十三年十一月十六日)

静岡縣農事試驗場分場ヲ左記ノ地ニ設置ス

志太郡西益津村郡

●告示第百二十九號 (明治三十三年六月二十二日)

静岡縣農事試驗場業務別記之ヲ定ム

第一 静岡縣農事試驗場ノ業務項目ヲ定ムル左ノ如シ

- 一 普通農産物ノ改良増殖ニ關スル試驗
- 一 巡廻講話ニ關スル事項
- 一 種苗配付ニ關スル事項
- 一 土壤肥料農産物等ノ分析ニ關スル事項
- 一 種苗肥料等ノ鑑定ニ關スル事項
- 第二 農事試驗場ハ地方ノ特産物ニ付特ニ其地方ニ委託シテ試験ヲ行ハシムルコトヲ得

●訓令丙第二六號 (明治三十三年六月十六日)

内務部 農事試驗場

静岡縣農事試驗場規定別紙ノ通之ヲ定ム

右訓令ス

静岡縣農事試驗場規定

第一章 業務



第一條 農事試驗場ノ業務項目ヲ定ムル左ノ如シ

普通農産物ノ改良増殖ニ關スル試験

巡廻講話ニ關スル事項

種苗配付ニ關スル事項

土壤肥料農産物等ノ分拆ニ關スル事項

種苗肥料等ノ鑑定ニ關スル事項

第二條 農事試驗場ハ地方ノ特産物ニ付特ニ其地方ニ委託シテ試験ヲ行ハシムル事ヲ得

第二章 職制

第三條 農事試驗場職員ノ職制ヲ定ムル左ノ如シ

場長

縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ總理シ場員ヲ統督ス

技師技手

場長ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス

書記

場長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第四條 場長事故アルトキハ上席職員其事務ヲ代理ス

第五條 左ニ掲ケル事項ハ場長ニ於テ縣知事經伺ノ上之ヲ處辨スヘシ

一 場中處務細則及諸規定ノ設置

一 各種試験ノ設計

一 地方特産物委託試験

一 職員ノ管外出張及私事旅行反省

一 土地建物ノ貸借

一 諸收穫物及不用品拂下

但成規ニ依リ取扱ヘキモノハ比限リニアラス

一 助手ノ任免(三十四年二月訓令丙第  
四十九號ヲ以テ追加)

第六條 左ニ掲ケル事項ハ場長ニ於テ便宜之ヲ處辨スヘシ

一 職員ノ管内出張

一 職員ノ病氣忌引除服出仕

一 職員ノ分課担任

但シ直チニ縣知事ニ報告スルヲ要ス



一 常農夫臨時農夫及小使給仕ノ命免

第七條 塲長ハ職員ノ進退黜陟ニ關シ縣知事ニ意見ヲ具申スル事ヲ得

第三章 服 務

第八條 塲長出張ヲ要スルトキハ管外出張ハ縣知事ニ伺出テ管内出張ニシテ日數七日以上ニ渉ルモノハ豫シメ報告スヘシ

第九條 旅費ヲ支辨シテ職員ノ出張ヲ請求スルモノアルトキハ塲長ニ於テ之ヲ許否シ其日數十日以上ニ渉ルモノハ豫シメ縣知事ニ報告スヘシ

第十條 職員ノ管内出張用件日數等ハ翌月五日迄ニ前月分ヲ塲長ヨリ縣知事ニ報告スヘシ

第十一條 職員出張シタルトキハ飯場後十日以内ニ復命書ヲ作り塲長ハ縣知事ニ技師以下ハ塲長ニ之ヲ提出スヘシ技師以下ノ復命書ニシテ必要ト認ムルモノハ塲長ハ縣知事ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條 塲長ハ毎年事業ノ功程ヲ翌年五月十五日限り縣知事ニ報告スヘシ但シ試験成績及緊急必要ノ事項ハ其都度之ヲ報告スヘシ

第十三條 出勤退勤時限休日祝祭日等ハ凡テ官廳ノ例ヲ適用ス

●縣令第六十號 (明治三十四年十一月三十日)

肥料取締法施行細則左ノ通定メ明治三十四年十二月一日ヨリ施行ス。

肥料取締法施行細則

第一條 肥料ノ製造販賣若ハ販賣ノ免許ヲ受ントスル者ハ肥料取締法施行規則第一條ニ依リ願書ヲ差出シ鑑札ノ下付ヲ受クヘシ

第二條 本縣内ニ主タル販賣所ヲ有スル者ハ肥料取締法施行規則第一條ノ二ノ第一項又ハ第二條ノ願書ヲ爲サントスルトキハ同時ニ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ但其營業ヲ廢止シタルトキハ同時ニ鑑札ヲ返付スヘシ

鑑札ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其書換若ハ再渡ヲ請フヘシ

第三條 肥料取締法施行規則第一條第三項ノ場合ニ於テハ同時ニ其販賣所ヲ管理スル者ノ氏名ヲ届出ヘシ

第四條 製造販賣又ハ輸入販賣ヲ營業トスル者ハ前年中ニ製造又ハ輸入シタル肥料販賣ヲ營業トスル者ハ前年中ニ各販賣所ニ於テ買入及讓渡タル肥料法第六條第二項ニ該當スル者ハ前年中ニ受入タル肥料ノ種類別數量及價額ヲ毎年一月三十一日迄ニ縣知事ニ届出ヘシ

第五條 肥料販賣所ニハ第一號様式ノ票札ヲ掲クヘシ

第六條 製造販賣ヲ營業トスル者ハ第二號様式ノ製造帳簿販賣ヲ營業トスル者ハ第三號様式ノ買入帳簿ヲ主タル販賣ニ備フヘシ



他府縣ニ主タル販賣所ヲ設クルモノニシテ本縣内ニ販賣所ヲ有スル者ハ第四號様式ノ受入帳簿ヲ備フヘシ

前二項ノ帳簿ノ保存期間ハ肥料讓渡帳簿ノ保存期間ニ同シ

肥料讓渡帳簿ハ第五號様式ニ依ルヘシ

第七條 肥料ノ検査ニ従事スル官吏ハ何時ニテモ前條ノ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第八條 第六條ノ帳簿ハ検査官吏ノ證印ヲ受クヘシ

帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ検査官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第九條 第六條ノ帳簿ヲ亡失シ若ハ著シク毀損シタルトキハ其旨ヲ速ニ縣知事ニ届出ヘシ

第十條 肥料ノ検査ニ従事スル官吏ノ携帶ハヘキ證票ハ第六號様式ニ依ル

第十一條 第二條第四條第六條第八條ニ違背シタル者及第七條ノ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

(第一號様式)

(表面) 縦二尺五寸

(裏面)

第 號	(製造販賣營業)
肥料	(販賣營業)
(販賣所)	
住所氏名	

明治何年何月何日
----------

備考

一 票札番號ハ鑑札番號ヲ記入スヘシ

一 主タル販賣所ニアラサル販賣所ニ在テハ住所氏名ノ傍ニ主タル販賣所々在地ヲ記入スヘシ

(第二號様式)

肥料製造帳簿

名 稱	數 量	製 造 年 月 日	原 料 ノ 種 類 及 名 稱
-----	-----	-----------	-----------------

(第三號様式)

肥料買入帳簿

名 稱	數 量	價 額	買 入 年 月 日	買 入 先 住 所 氏 名
-----	-----	-----	-----------	---------------

(第四號様式)

肥料受入帳簿

受 入 年 月 日	名 稱	數 量	價 額
-----------	-----	-----	-----

(第五號様式)

肥料讓渡帳簿



名 稱 數 量 讓渡年月日 讓渡先住所氏名

(第六號樣式)

(表面) 用紙鳥ノ子 縦三寸

(裏面)

第 號
印 靜岡縣技手 何 某
寸二横 靜岡縣肥料検査官吏之證

明治何年何月何日
靜 岡 縣 靜 岡 縣 印

◎縣令第二十六號 (明治三十二年五月三十一日)

民法第三十四條ニ依リ許可ヲ得又ハ民法施行法第十九條ニ依リ認可ヲ受ケタル法人ハ左ノ事項ヲ 期日内ニ報告スヘシ

但明治三十一年中ニ許可セラレタル法人ハ今年十二月末日ノ現在本年五月迄ニ許可セラレタル 法人ハ五月末日ノ現在ニ依リ何レモ來ル六月三十日限り報告スヘシ

- 一 登記又ハ登記ノ變更ヲナシタルトキハ其事項 登記後一週間以内
- 一 前年間ノ業務及前年末ニ於ケル社員數 毎年一月

一 財産目錄

調製後一ヶ月以内

一 二社以上ノ法人聯合シテ集會ヲ開クトキハ其

開會前五日

一 通常總會又ハ臨時總會ノ決議事項

閉會後一週間以内

◎五第三二〇號 (明治三十二年五月三十一日)

郡 市 郡

今般縣令第二十六號ヲ以テ法人業務報告規程發布候處法人業務ニ付テハ公益ヲ主トシ營利ノ行爲アルヘカラサルハ勿論報徳社團ニ就テハ他府縣ノ模範タルヘキ本縣顯著ノ設備トシテ蠶キニ内務省ヨリ官報紙上ニ發表セラレ社會ノ凝目スル處ニモ有之之レカ盛衰ハ縣下全般ノ利害榮辱ニモ係リ萬一ニモ法規ニ觸レ候様ノ事アリテハ遺憾ノ至リニ付之レテ獎勵スルト同時ニ嚴重ノ監督ヲ加ヘ益其業務ヲ完全ニ發達致サセ度今回内務大臣ヨリ訓令ノ趣モ有之候ニ付其管内各報徳社ニ付左ノ事項特ニ注意セララルヘシ

- 一 役員ノ名稱ハ從來定款ニ於テ社長副社長幹事ト規定ノ向モ有之候處右ハ民法第五十二條乃至第五十九條ニ符合候様可成理事及監事ノ名稱ヲ付セシムルコト
- 二 報徳社ノ事務所ハ何人ニモ明知シ得ラル、様相當ノ看板ヲ掲ケシムルコト
- 三 財産目錄及社員名簿ハ民法第五十一條ニ依リ事務所ニ備ヘ置クヘキモノナルニ付違反ナキ



様注意セシムル事

- 四 報徳社又ハ類似ノ結社ニシテ未タ法人ノ許可ヲ得サルモノハ此際漏レナク民法第三十四條ニ依リ認可申請書ヲ提出セシムルコト
- 五 報徳社ハ民法第六十條ニ依リ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クヘキモノニ付注意ヲ要ス
- 六 報徳社ニシテ分社又ハ支社ノ關係ヲ以テ他ノ社團ヲ監督スルモノハ毎年一回以上該分支社全体ノ集會ヲ開キ彼我協同和合セシムルコト
- 七 報徳社ハ其目的以外ノ事業ヲナシ又ハ設立ノ條件ニ違反シタルトキ其他公益ヲ害スヘキ行為ヲナシタルトキニハ民法第七十一條並ニ民法施行法第二十三條ニ依リ主務官廳ニ於テ其認可ヲ取消シ又ハ解散ヲ命セラルヘキ義ニ付以上ノ場合ニ於テハ直ニ其旨具申サルヘキコト
- 八 報徳社又ハ其他ノ社團及財團ヲ法人ト爲スニ付民法第三十四條ニ依リ許可ヲ申請スルモノアルトキハ其法人設立ノ目的及事業ノ順序狀況及他ノ法人ニ對スル關係並ニ設立者ノ身元經歷等ヲ調査シ意見ヲ付シテ進達セラルヘキコト
- 九 既ニ許可ヲ得テ設立シタル法人ヨリ差出スヘキ認可申請書及出願書面ハ其事實調査ノ上何レモ意見ヲ付シテ進達セラルヘキコト

右訓令ス

第二章 牧 畜

●乙第四號

(明治十五年一月十七日)

各 郡

牛馬羊豚改良名稱ノ義是迄一定ノ唱呼無之ヨリ兎角區々ニ涉リ調査上不都合不尠候間爾來別紙ノ通唱呼相定メ候條都テ右ニ準據執計フヘシ此旨相達候事

(別紙) 牛馬羊豚雜種名稱

- 何種 一回雜種
- 全 二回雜種
- 全 三回雜種
- 全 四回雜種
- 全 五回雜種

例言

内國種ノ牝ニ純粹洋種ノ牡ヲ配シテ得タルモノヲ和洋何々一回雜種ト言ヒ一回雜種ノ牝ニ



洋種ノ牝ヲ配シテ得タルモノヲ和洋何々ニ回雜種ト言フ以下三回四回五回ハ之ニ倣ヒ六回ニ至ツテ何々改良種ト稱ス

内國種ノ牝ニ血統ノ正確ナラサル洋種ノ牝ヲ配シテ得タルモノハ單ニ和洋何回雜種ト稱ス  
(十五年乙第二十四號追加)

牝牡洋種ニシテ假令ハ短角種ノ牝ニ「デボン」種ノ牝ヲ配シテ得タルモノ、如キハ洋種何々何回雜種ト稱ス

種類ノ正確ナラサル洋種ノ牝牡ヨリ得タルモノハ單ニ洋種ト稱ス

假令ハ一回雜種ノ牝ニ内國種ノ牝ヲ配シ又ハ二回雜種ノ牝ニ一回雜種ノ牝ヲ配シテ得タルモノ、如キ退却雜種ト言フ

雜種ハ都テ種牝ノ種類ヲ唱フルモノトス

●縣令第三十一號 (明治三十一年四月十日)

種牝牛取締規則左ノ通相定ム

但明治十八年甲第二十二號廢止ス

種牝牛取締規則

第一條 牝牛ヲ種付ニ使用セントスルモノハ本縣ニ願出テ認許書ヲ受クヘシ

第二條 種牝牛ノ資格ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 年齡滿二歲以上(三十二年縣令第十號ヲ以テ改正)

二 躰尺四尺以上

三 強壯ニシテ骨格及性質善良ナルモノ

四 惡癖又ハ遺傳病ナキモノ

第三條 第一條ノ認許書ヲ受ケント欲スルモノハ願書ニ獸醫ノ診斷書ヲ添付シ町村役場又ハ市役所ヲ經テ本縣ニ差出スヘシ

第四條 種牝牛認許書ノ有効期限ハ滿一ケ年トス種牝牛疾病又ハ事故ニ依リ種付ニ使用スルヲ得サルニ至リタルトキハ速ニ認許書ヲ返納スヘシ

第五條 種牝牛所有者ハ帳簿ヲ製シ交尾ノ年月日頭數及牝牛所有者ノ住所氏名ヲ明記スヘシ

第六條 牝牛所有者又ハ管理人ニ於テ牝牛ノ血統證ヲ請求スルトキハ種牝牛所有者ハ之レカ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 認許書ヲ毀損亡失シ若シハ轉居改氏名ヲナシタルトキハ其書換又ハ再渡ヲ願出ヘシ

第八條 種牝牛ヲ賣買讓與シタルトキハ其旨ヲ記シ双方連署ヲ以テ認許書ノ書換ヲ願出ツヘシ

第九條 種牝牛斃死シ若シハ他管下ノ者へ賣渡又ハ讓渡シタルトキハ速ニ認許書ヲ添へ其旨届出



ヘシ

第十條 獸醫ハ第三條ニ依リ種牡牛ノ診斷ヲ請フモノアルトキハ第二條ノ資格ニ違フコトナキヤ  
ヲ診按シテ診斷書ヲ作り交付スヘシ

第十一條 種牡牛ヲ牽出シ種付ヲナストキハ認許證ヲ携帶スヘシ

當該官吏又ハ牝牛所有者ヨリ認許證ノ閱覽ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 當廳ハ毎年一回以上主務官吏ヲシテ種牡牛ノ狀況牘牛ノ成績及第五條ノ帳簿ヲ檢査セ  
シム

前項ノ場合ニ於テ種牡牛所有者又ハ管理人ハ其檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 第一條ニ違背シタルモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

(書式)

種牡牛認許願

郡市町村大字番地族籍職業

所有者 何

某

一牡牛

種類

和種

洋種

和洋雜種

出生 何年何月

躰尺 何尺何寸何分

毛色 何色

產地 何府縣何國何郡市町村又ハ何々

右種牡牛ニ使用致度候間認許書御下付相成度此段相願候也

右

年月日

何

某印

知事宛

◎縣令第二十八號

(明治三十一年四月三日)

種牡馬檢査施行規則左之通相定ム

種牡馬檢査施行規則

第一條 種牡馬ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ願書ヲ作り毎年二月限リ町村役場又ハ市  
役所ヲ經テ願出ツヘシ(三十二年縣令第五  
十二號ヲ以テ改正)

第二條 種牡馬ノ檢査ハ毎年一回之ヲ行フ其期日及場所ハ十五日以前ニ告示ス(全上)

第三條 檢査合格ノ種牡馬ニハ左臂部ニ第二號式ノ烙印ヲ施シ其所有者ニ第三號書式ノ證明書ヲ



下付ス

第四條 種付ケニ使用スルコトヲ廢止シ又ハ種牡馬檢査法施行細則第六條ノ場合ニ於テハ町村役場又ハ市役所ヲ經テ其證明書ヲ返納シ第四號式ノ烙印ヲ受クヘシ(三十二年縣令第五十二號ヲ以テ改正)

種牡馬斃死シ若クハ盜難ニ罹リタルトキハ前項ノ例ニ依リ速ニ證明書ヲ返納スヘシ

第五條 種牡馬ヲ賣買讓與スルトキハ雙方連書ノ上證明書ノ書換ヲ請フヘシ(三十二年縣令第五十二號ヲ以テ追加以下條下)

第六條 種牡馬所有者又ハ管理人ハ第五號式種付簿及第六號式ノ產駒成績表ヲ調製記載スヘシ

第七條 第二條ノ檢査ニ當リ其種牡馬疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニテ檢査場ニ牽出シ難キ時ハ二名以上ノ保證ヲ以テ其旨檢査員ニ申出ツヘシ

第八條 種牡馬ハ傳染病若クハ遺傳病ニ罹リ又ハ惡癖アル牝馬ニ配合セシムヘカラス

附 則

第九條 第二條ノ告示期限ハ本年ニ限リ一ヶ月以内ニ告示スルコトアルヘシ

第一號書式

種牡馬檢査願

種類

一何毛牝馬

何年何月生

右惡癖遺傳病無之強壯善良ナルモノニ有之候ニ付種付ニ供度候間御檢査ノ上證明書御下付被下度此段相願候也

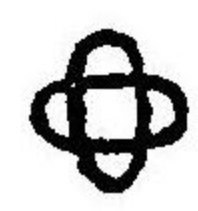
郡市町村番地族籍職業

馬匹所有者 何

某 印

年 月 日 知 事 宛

第二號式



第三號式

表 面

種牡馬證明書

郡市町村番地

所有者 何

某

種	番	種	毛	名	牝	年	産	特	血
號	類	色	號	尺	地	齡	徵	統	







合計何頭 北何頭

内譯

内國種

何頭

洋種

何頭

何回雜種

何頭

備考 本表ハ一種牡馬毎ニ作ルヘシ

### 第三章 蠶 絲

◎縣令第二十二號 (明治二十六年三月十七日)

蠶絲業取締規則左ノ通相定ム

蠶絲業取締規則

#### 第一章 總 則

第一條 此規則ニ於テ蠶絲業者トアルハ養蠶者蠶種及生絲製造者桑樹栽培者繭蠶種生絲屑物桑葉桑苗販賣者ヲ總稱ス

第二條 蠶絲業ニ従事スルモノハ組合ヲ設ケ之ニ加入ス可シ

但養蠶者ノ原種紙二分五厘以下ヲ飼養シ桑培者ノ桑樹二百株未滿ヲ栽培シ各自用ニ供スルモノハ組合ニ加入セサルモ妨ナシ(明治三十一年縣令第十三號ヲ以テ本條但書中削除訂正)

第三條 組合ノ設置ハ郡市區ノ區畫ニ依ルヘシ若シ一郡市區内ニ於テ蠶絲業者少數ナルトキハ近隣郡市區内ノ同業ト合併スルコトヲ得

第四條 組合ノ名稱ハ静岡縣何郡市蠶絲組合作ト稱スヘシ

第五條 組合員ハ必ス證券ヲ携帯スヘシ

第六條 組合員又ハ組合ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得

第七條 社名若クハ組名ヲ以テ組合員タルモノハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシム可シ

第八條 組合員ハ組合及取締所ノ規約ヲ遵守シ其費用ヲ負擔スヘシ費用負擔ノ割合又ヒ徵收方法ハ規約ニ於テ定ムヘシ

第九條 組合内便宜ノ地ニ事務所ヲ設ケ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理ス可シ

但土地ノ便宜ニ依リ出張所ヲ設クルコトヲ得

第十條 蠶絲業組合取締所ヲ静岡ニ設ケ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監督ス可シ

第十一條 組合委員又ハ取締議員ノ數ハ組合員ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ム可シ



第十二條 議員ノ任期ハ二ケ年トス補缺議員ノ任期ハ前任議員ノ任期ニ依ル可シ

第十三條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ互選ス可シ

第十四條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名ハ縣廳ヘ届出ツヘシ

第十五條 組合又ハ取締所ノ規約ハ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 組合又ハ取締所ノ役員ヲ撰定シタルトキハ其族籍氏名ヲ縣廳ヘ届出ツ可シ

第十七條 役員中不適任ト認ムルモノアルトキハ縣廳ニ於テ改撰ヲ命スルコトアル可シ

第十八條 削除(明治三十一年縣令第  
十三號ヲ以テ削除)

第二章 組 合

第十九條 組合ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ組合内各小區ニ在テ區内ノ事務ヲ處辨シ組長ハ事務所ニ在テ組合一切ノ事務ヲ處辨スヘシ

第二十條 委員ハ各區内ノ組合員之ヲ撰定シ組長ハ委員ノ投票ヲ以テ組合員中ヨリ撰定スヘシ

第二十一條 組長並ニ委員ハ時々組合員ノ事業ヲ巡檢シ専ラ業務ノ改良及其發達ヲ圖ル可シ

第二十二條 組合ノ議員ハ委員ヲ以テ之ニ充テ組合規約ハ會議ニ於テ之ヲ定ム可シ

第二十三條 違約者處分ハ規約ニ依テ組長之ヲ行フ取締所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルトキハ其旨取締所ニ通知ス可シ

第二十四條 組合ノ規約ハ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ムヘシ

但土地ノ情況ニ依リ加除増減スルコトヲ得

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 一 業務ノ改良發達ヲ圖ル事項
- 一 弊害ヲ矯正スル事項
- 一 蠶桑ノ病毒豫防驅除ニ關スル事項
- 一 繭生絲檢査ニ關スル事項
- 一 荷造并ニ賣買ニ關スル事項
- 一 役員委員撰舉ノ方法及其職務權限
- 一 役員給料及旅費日當ニ關スル事項
- 一 會議ニ關スル事項
- 一 組合員加入退去ノ手續
- 一 經費賦課徵收支出並決算ニ關スル事項
- 一 違約者處分ノ方法
- 一 其他組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件



第三章 取締所

- 第二十五條 取締所ニハ事務員ヲ置キ取締所規約ニ於テ定メタル一切ノ事務ヲ處辨スヘシ
- 第二十六條 事務員ハ取締所會議員ノ投票ヲ以テ各組合員中ヨリ撰定スヘシ
- 第二十七條 取締所ノ議員ハ組合委員ノ投票ヲ以テ各組合員中ヨリ選定シ取締所規約ハ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第二十八條 事務員ハ常ニ内外蠶絲業上ノ實況ニ注意シ各組合ノ業務ヲ總理スヘシ
- 第二十九條 削除(明治三十一年縣令第  
十三號ヲ以テ削除)
- 第三十條 取締所ノ規約ハ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ム可シ
  - 一 取締所位置
  - 一 各組合ノ氣脈ヲ聯通スル方法
  - 一 内外蠶絲業ノ實況ヲ調査シ及之ヲ報告スル方法
  - 一 取締所會議員及役員撰舉ノ方法
  - 一 會議ニ關スル事項
  - 一 蠶生絲檢査ニ關スル事項(明治三十一年縣令第十  
三號ヲ以テ削除訂正)
  - 一 規則ニ違背シタル蠶生絲處分ノ方法(前同上)

- 一 違約者處分ノ方法
- 一 經費賦課徵收支出及決算ニ關スル事項
- 一 組合員證票蠶生絲標章ニ關スル事項(明治三十一年縣令第十  
三號ヲ以テ削除訂正)
- 一 組合費用ノ大綱
- 一 其他取締所會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第四章 蠶種製造販賣者及養蠶者削除(明治三十一年縣令第  
十三號ヲ以テ削除)

- 第三十一條 削除(前同上)
- 第三十二條 削除(前同上)
- 第三十三條 削除(前同上)
- 第三十四條 削除(前同上)
- 第三十五條 削除(前同上)
- 第三十六條 削除(前同上)
- 第三十七條 削除(前同上)
- 第三十八條 削除(前同上)
- 第三十九條 削除(前同上)



第四十條 削除(前同上)

第四十一條 削除(前同上)

第四十二條 削除(前同上)

第五章 製絲營業者并繭生絲商

第四十三條 生絲ニ不正ノ重量ヲ附シ賣買スルヲ得ス

第四十四條 提造島田造折返造等ハ生絲ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買スルヲ得ス

第四十五條 一捆ハ勿論一總若クハ一把中良否混淆等ノモノヲ製造賣買スルヲ得ス

但等級ヲ區分シテ一捆トナシタルモノハ此限ニアラス

第四十六條 繭ハ春夏秋冬若クハ黃白ノ種類又ハ大陽殺蒸殺燥殺等混淆シタルモノヲ賣買スルヲ得

ス

第四十七條 削除(明治二十九年縣令第  
三十八號ヲ以テ削除)

第四十八條 本則第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條ニ背キタル繭生絲ハ取締所ニ於テ

規約ニ依リ處分セシム

第六章 罰 則

第四十九條 削除(明治三十一年縣令第  
十三號ヲ以テ削除)

第五十條 本則第二條第四十三條ニ違背シタルモノハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス(二十九年縣  
令第三十八  
號三十一  
年同條第  
十三號  
ヲ以テ本  
條中刪除  
訂正)(三十一  
年縣令第  
十三號  
ヲ以テ形  
刪除)

●縣令第十二號 (明治三十四年二月二十二日)

蠶種検査施行手續左ノ通り相定ム

蠶種検査法施行手續

第一條 蠶種検査法施行規則第一條ノ蠶種製造届書ハ毎年三月十五日迄ニ所轄町村役場郡市役所

ヲ經由シテ知事ニ差出スコトヲ要ス但掃立以前ニ於テ届出ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直チ

ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二條 蠶種製造者製造所ノ管理ヲ自ラ爲サマルトキハ代理人ヲ定メ第一號書式ニ依リ双方連署

ノ上蠶種製造届書ト共ニ届出ツルコトヲ要ス

第三條 蠶種製造者原種ノ掃立ヲ了リタルトキハ三日以内ニ第二號書式ニ依リ所轄蠶種検査所ニ

届出ツルコトヲ要ス但數回ニ掃立ツルトキハ其都度届出ツルコトヲ要ス

第四條 製造所ヲ異ニシタル蠶兒繭及ヒ卵ハ之ヲ混同スルコトヲ得ス

第五條 原種ノ掃殺ハ蠶種ノ製造ニ供用セサルモノト雖トモ收繭後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存ス

ルコトヲ要ス



第六條 製種用蠶兒ノ上簇ヲ了リタルトキハ即日所轄蠶種検査所ニ第四號書式ニ依リ上簇届書ヲ

差出スコトヲ要ス但數回ニ上簇ヲ爲シタルトキハ其都度届出ツルコトヲ要ス

第七條 製種用蠶兒ヨリ產生シタル繭ハ收繭後ノ検査ヲ經ルニアラサレハ他所ニ搬出スルコトヲ得ス

第八條 繭ノ撰別ヲ了リタルトキハ直チニ第四號書式ニ依リ收繭届書ヲ作り蠶種検査員臨檢ノ際之ヲ差出スコトヲ要ス

第九條 繭ハ上簇後一化性ニ在リテハ十二日以内ニ化性及ヒ多化性ニ在リテハ十日以内ニ撰別スルコトヲ要ス

第十條 蠶種検査法施行規則第二十條ニ依リ種繭證明書ノ書換ヲ請求セントスルトキハ第三號書式ニ依リ請求書ヲ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス

第十一條 蠶種検査法施行規則第十九條ニ依リ種繭證明書ノ交付ヲ請求セントスルトキハ其事由ヲ記シタル請求書ヲ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス但毀損シタルモノニ在リテハ請求書ニ之ヲ添付スヘシ

蠶種検査所更ニ證明書ヲ交付スルトキハ其證明書ニ再下付ノ旨ヲ記載ス  
第十二條 不越年蠶種ノ收繭後ノ検査ヲ了リタルトキハ第六號書式ニ依リ蠶紙證明請求書ヲ作り

三日以内ニ蠶紙及ヒ種繭證明書ヲ添へ之ヲ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス

製絲用種ニアリテハ前項ノ蠶紙證明請求書ヲ蠶種検査所ニ差出シタルトキハ全時ニ本手續第二十九條ノ手数料ヲ市ニアリテハ縣廳ニ郡ニアリテハ所轄郡役所ニ納付スヘシ

第十三條 蠶紙ハ縦一尺一寸七分横七寸四分框製一峽區ハ内經一寸四分ノ圓環ヲ容ル、ニ足ルヲ標準トス

第十四條 不越年製絲用種ノ蠶紙ニハ之ニ産卵セシムヘキ蛾數ヲ其表面ニ記入スルコトヲ要ス

第十五條 蠶種ノ名稱ハ變更スルコトヲ得ス

第十六條 不越年原種ノ製造ヲ了リタルトキハ第七號書式ニ依リ不越年原種検査請求書ヲ作り卵及ヒ母蛾ヲ添へ之ヲ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス

前項ノ検査請求書ヲ蠶種検査所ニ差出シタル時ハ同時ニ本手續第二十九條ノ手数料ヲ市ニアリテハ縣廳ニ郡ニアリテハ所轄郡役所ニ納付スヘシ

第十七條 越年蠶種ノ製造ヲ了リタルトキハ三日以内ニ第八號書式ニ依リ蚕種製造領届書ヲ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス  
前項ノ蠶種製造領届書ヲ蠶種検査所ニ届出タルトキハ本手續第二十九條ノ蠶種検査手数料ヲ市ニアリテハ縣廳ニ郡ニアリテハ所轄郡役所ニ納付スヘシ



第十八條 越年原種母蛾ノ検査ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十九條 蠶種製造者越年原種母蛾ノ検査ヲ請求セントスルトキハ第九號書式ニ依リ越年原種検査請求書ヲ作り卵及ヒ母蛾ヲ添ヘ一化蠶ニアリテハ九月一日ヨリ全月十五日迄ニ二化蠶及ヒ多化蠶ニアリテハ十月三十日迄ニ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス

第二十條 蠶種検査所ハ蠶種製造者ノ原種ヲ保管スルトキハ其請求ニ依リ預証ヲ交付ス

第二十一條 蠶種製造者原種検査済ノ告知ヲ受ケタルトキハ蠶種検査所ニ出頭シ蠶種ノ枚數及ヒ証印ノ有無ヲ取調ヘ検査済蠶種ヲ受取り預リ証ヲ返納スヘシ

第二十二條 本縣ニ住所ヲ有セサル蠶種製造者カ本縣ニ於テ蠶種ヲ製造シ産卵後ノ検査ヲ受ケントスルトキハ製造所ノ所在地名ヲ蠶紙ノ裏面ニ記載スルコトヲ要ス

第二十三條 蠶種検査員蠶種検査法施行規則様式第四號第五號及ヒ第十號ノ印ヲ押捺スルトキハ全時ニ本手續第一號雛形ノ印ヲ押捺ス

第二十四條 原種製造用ノ蠶紙ニハ番號ヲ附シ其蛾區ノ符號ハ數字ヲ用ユルコトヲ要ス

母蛾ハ成ヘシ二十八區連接ノ紙袋ニ入レ之ニ蠶紙ト全一番號並ニ符合、化性、化期、名稱及ヒ製造人ノ氏名ヲ記載スヘシ但蠶紙ノ番號ハ一名稱毎ニ新ニ起スコトヲ要ス

第二十五條 母蛾ノ亡失シタル區ニハ第二號雛形缺蛾ノ印ヲ押捺ス

第二十六條 蠶種製造者缺蛾又ハ有毒印ノ區ヲ除去シ無毒印ノ區ヲ以テ填補セントスルトキハ蠶種検査所ニ於テ自ラ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ蠶種検査所ハ之ニ第三號雛形ノ繼印ヲ押捺ス

第二十七條 蠶種検査法施行規則第十八條ニ依リ製絲用種検査合格証印ヲ請求セントスルトキハ第十號書式ニ依リ請求書ヲ作り蠶種ヲ添ヘ之ヲ蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス

第二十八條 郡役所ハ第十二條第十六條第十七條ノ検査手數料ヲ領收シタルトキハ蠶種製造者氏名化性、化期、名稱、製絲用種枚數原種蛾數並ニ手數料金額ヲ記載シ翌日迄ニ所轄蠶種検査所ニ通知スヘシ

第二十九條 蠶種検査ノ手數料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス

- 一 原種 一 蛾區ニ付 金壹厘
- 一 製絲用種 一枚ニ付 金壹錢五厘

第三十條 蠶種製造者ヨリ知事ニ差出スヘキ届書ハ蠶種検査所開設以後ハ本手續中別段ノ規程アルモノ、外ハ直接所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス

附 則

第三十一條 本手續中蠶種検査法施行規則トアルハ明治三十三年七月二十六日農商務省令第十七



蠶種検査法施行規則ヲ云フ

第三十二條 本手續ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス但本手續第一條ハ三月一日ヨリ施行ス

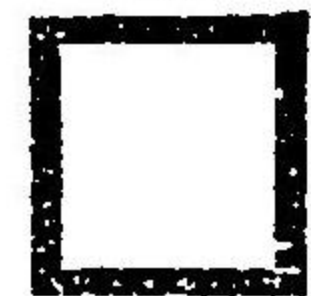
第三十三條 明治三十一年四月縣令第二十九號蠶種検査實施手續ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

雛形

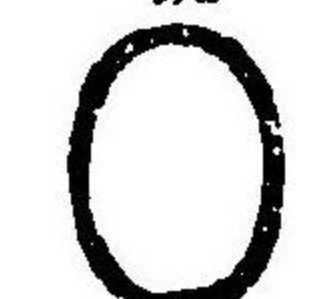
何府縣蠶種検査員名印

缺

繼印

第一號  方六分 肉色朱

第二號  圓徑二分五厘 肉色黑

第三號  長形三分 短形二分 肉色朱

第一號書式

代理人届

郡市町村番地

氏

名

右何郡市何町村何番地製造所擔當代理人ト相定候條此段及御届候也

年月日

本 郡市町村番地 人 氏

名 印

第二號書式

掃立届

郡市町村番地

代理人 氏

名 印

化性	一化性	二化性	第一化	原種掃立數	全上蠶量	掃立月日	製造所
、	、	、	、				
、	、	、	、				
、	、	、	、				
、	、	、	、				
、	、	、	、				

右及御届候也

年月日

宛

郡市町村番地

氏

名 印



第三號書式

二化性第二化及ヒ多化性モ本式ニ準ス

代理人ヨリ届出ツルモノハ何郡市町村何番地何某代理人ト肩書スルヲ要ス以下諸届皆同シ

種菌證明書換請求書

化性	化期	名稱	種菌量	讓渡種菌量	現在種菌量	讓渡人	製造所
----	----	----	-----	-------	-------	-----	-----

右及請求候也

年月日

郡市町村番地

讓渡人 氏

名印

何檢査所所轄

郡市町村番地

讓受人 氏

名印

第四號書式

宛  
上 簇 届

化性	化期	名稱	届出掃立 蛾 數	届出掃立 蟻 量	上簇月日	種菌撰別 豫定月日	製造所
----	----	----	-------------	-------------	------	--------------	-----

右及御届候也

年月日

郡市町村番地

氏

名印

第五號書式

二化性第二化多化性モ本式ニ準スヘシ

收 菌 届

調査事項 化性名稱	一化性何々	掃立蛾數	掃立蟻量	收菌總樹量	蟻量一匁ニ付 收菌樹量	種菌撰別樹量



製絲用繭樹量	同功繭樹量	繭片薄皮 不正形繭樹量	原種用製造 繭算枚數	製絲用種製造 繭算枚數	全上一枚ニ付 産卵豫定蛾數	發蛾豫定月日

右及御届候也

年月日

宛

郡市町村番地

氏

名印

二化性以上ハ本式ニヨリテ別ニ調製スヘシ

第六號書式

不越年種登紙證印請求書

化性	化期	名稱	種繭證明書 番號	種繭量	原種	繭種製造 豫算枚數	製絲用種 何蛾付	發蛾豫定 月日

右請求候也

年月日

宛

郡市町村番地

氏

名印

第七號書式

不越年原種檢査請求書

化性	化期	名稱	原種枚數	産卵蛾數	産卵月日	孵化豫定月日

右請求候也

年月日

宛

郡市町村番地

氏

名印



第八號書式

蠶種製造領屆

化性	化期	名稱	出殼繭量	産卵月日	蠶種製造領 原種一製絲用種	殘余枚數 原種一製絲用種
----	----	----	------	------	------------------	-----------------

右及御届候也

郡市町村番地

氏

名印

年月日

宛

年越種ハ最下ノ一欄ヲ要ス

第九號書式

越年原種母蛾検査請求書

化性	化期	名稱	稱枚	數蛾	數
----	----	----	----	----	---

右請求候也

郡市町村番地

氏

名印

年月日

宛

第十號書式

原種用變更請求書

化性	化期	名稱	原種用 枚數一蛾數	製絲用種變更 枚數一蛾數	現在 枚數一蛾數
----	----	----	--------------	-----------------	-------------

右變更致度候ニ付證印相成度候也

郡市町村番地

氏

名印

年月日

宛

●縣令第四十二號

(明治三十四年五月二十七日)

蠶蛆驅除規則左ノ通定ム

蠶蛆驅除規則

第一條 蠶絲業ニ從事スルモノハ其ノ取扱ヘル蠶繭ヨリ發生シタル蠶蛆ヲ發見シタルトキハ必ス之ヲ殺盡スヘシ

第二條 生繭運搬ニ使用スル容器ハ綿布、麻布其他蠶蛆ノ逸出ヲ防クニ足ル材料ヲ以テ製作シタ



ルモノタルコトヲ要ス

- 第三條 蠶絲業ニ従事スル者ハ繭置場ノ床面ニ蠶蛆ノ逸出スヘキ罅隙ヲ存スルコトヲ得ス
- 第四條 知事ハ官吏吏員ヲ派遣シ蠶絲業ニ従事スル者ニ就キ蠶蛆驅除ノ實況ヲ臨檢セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ當業者ハ其臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第五條 第一條第二條第三條第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス
- 第六條 本規則ニ於テ蠶絲業ニ従事スル者ト稱スルハ養蠶者蠶種製造者製絲業者蠶繭仲買商等總テ蠶繭ヲ取扱フ者ヲ云フ

附 則

第八條 本規則ハ明治三十四年六月一日ヨリ施行ス

●諭告第二號 (明治三十四年五月二十七日)

蠶絲業者ノ最モ恐ル可キハ微粒子病及蠶蛆ニシテ微粒子病ニアリテハ既ニ檢査法ヲ施行セラレ之ヲ驅除スルノ方法アリト雖モ蠶蛆ニ在リテハ未タ驅除法ノ制定ナシ斯業ノ盛大ヲ極ムルト同時ニ該蛆ノ蔓延甚シキヲ致シ殊ニ本縣ノ如キハ其被害少カラヌ是レ今般縣令ヲ布キ驅除ヲ勵行スル所以ナリ今左ニ蠶蛆經過ノ概略及驅除法ヲ掲ケ參考ニ供スヘシ

抑モ蛆ノ經過タルヤ四五月ノ交土中ニ蟻居シタル蛹ハ羽化シテ蛆蠅トナリ日光ノ照射乏シク空氣

ノ流通悪シキ桑園ヲ飛翔シ桑葉ノ裏面ニ産卵ス而シテ産兒ハ桑葉ト共ニ蛆卵ヲ嚙下シ胃中ニ於テ孵化シタル蛆幼ハ神經球内ニ喰込ミ後蠶ノ氣門ニ移リ漸ク發育シテ蠶ヲ斃スニ至ル而シテ蠶蛆全ク發育スル時ハ蠶繭ヲ破リテ出テ再ヒ土中ニ入り蛹トナリ越年スルモノナリ而シテ一疋ノ蛆蠅ハ千有餘箇ノ産卵ヲナスモノニシテ各桑葉ニ一粒乃至三粒ヲ産付スルモノナルカ故ニ其被害ノ大ナル想フヘシ蠶蛆驅除法ノ概要ハ左ノ如シ

- 第一 蠶蛆ハ光線空氣ノ疏通悪シキ桑園ニ産卵スルコト多キカ故ニ新タニ桑園ヲ仕立ツル者ハ五月頃ノ風位ヲ察シテ桑ヲ植栽スルヲ要ス又晩生桑ト早生桑トヲ交互一畦ツ、植付早生桑ヲ刈取リタル後ハ自ラ空氣ノ流通宜シキニ至ル様仕立ツルヲ要ス
- 第二 蠶室又ハ居室近隣ニ植栽シタル桑葉ハ可成蠶兒四眠以前ニ給與スル様注意スヘシ
- 第三 五六月頃桑葉ニ於テ蠅尺蠖野蠶等ヲ目撃シタルトキハ直ニ之ヲ捕殺スヘシ
- 第四 蠶兒四五齡ニ至リ蠶繭アリタルトキハ直ニ之ニ熱湯ヲ注キ若クハ之ヲ燒殺スヘシ
- 第五 蠶蛆ノ寄生シタルモノハ結繭スルモ往々薄皮繭或ハ死籠繭トナルモノ多クハ是等ノ繭ハ直ニ殺蛹スヘシ
- 第六 蠶兒ハ蠶兒上簇後十二三日ノ頃出繭スルモノナレハ道ヒ出テタル蛆ヲ發見シタルトキハ必ス之ヲ捕殺スヘシ



- 第七 製絲用繭ハ可成收繭後二三日ノ中ニ殺蛹シ生繭ハ成ルヘク運搬セサル様注意スヘシ
- 第八 養蠶者、生絲製造者、蠶種製造者、蠶繭取扱者ハ繭架ノ下層ニ布帛或ハ強韌ナル紙等ノ受幕ヲ張り幕ノ中央ニ孔ヲ穿テ漏斗ヲ付シ其一端ヲ桶或ハ瓶内ニ挿入シ蠶蛆ノ之ニ陥落スル装置ヲナスヘシ
- 第九 生繭ヲ聚散或ハ保存スル室内ニ罅隙アルトキハ目張其他ノ方法ヲ以テ蠶蛆ノ散逸ヲ防クヘシ
- 第十 生繭ヲ運搬スル容器ハ緻密ナル綿布麻布其他蠶蛆ノ逃竄セサル材料ヲ以テ製作シタルモノヲ用ユヘシ
- 第十一 捕獲シタル蠶蛆ハ燒殺其他ノ方法ヲ以テ殺盡スヘシ

右諭告ス

●縣令第一號 (明治三十五年一月二十四日)

自家用蠶種取締規則左ノ通り定ム

自家用蠶種取締規則

- 第一條 本規ニ於テ自家用蠶種ト稱スルハ自カラ掃立タル蠶見ヨリ生産シタル繭ヲ以テ製造シ自家飼育ニノミ供用スル蠶種ヲ謂フ

第二條 自家用蠶種ヲ製造シタル者ハ製造後三日以内ニ別記書式ニ依リ縣知事ニ届出ヘシ

第三條 自家用蠶種製造者ハ其製造前ニ於テ左ノ事項ヲ蠶紙ニ記載スヘシ

- 一 表面ニ化性、化期、名稱及ヒ自家用蠶種ノ文字
- 二 裏面ニ製造年月日及ヒ住所氏名

第四條 自家用蠶種製造者ハ收繭後マテ蠶種ノ掃殺ヲ保存スヘシ

第五條 縣知事ハ必要ト認ムルトキハ官吏吏員ヲ派遣シ自家用蠶種製造者ニ就キ臨檢セシムルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ當業者ハ其臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 第二條第三條ニ違背シ又ハ第五條ノ臨檢ヲ拒ミタルモノハ科料ニ處ス

第七條 本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(届書式省略)

●告示第八十五號 (明治三十一年六月十九日)

濱名郡立蠶業學校ノ製造蠶種ハ明治三十年法律第十號蠶種検査法第十八條ニ據ルコトヲ承認ス

第四章 獸醫蹄鐵工等



●甲第九十四號

(明治十八年十月二十九日)

獸醫心得左ノ通相定メ明治十九年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十七年三月本縣甲第二十六號布達ハ本文施行ノ當日ヨリ廢止ス

獸醫心得

第一條 管内ニ於テ獸醫ヲ開業セントスル者ハ族籍生年月並ニ開業ノ場所ヲ記シ履歷書及免狀寫相添縣廳ニ届出ヘシ

第二條 開業ノ場所ヲ轉シ又ハ出張所ヲ設ケントスル者ハ其場所ヲ記シ縣廳ニ届出ヘシ

但出張所ヲ廢シタルトキモ其旨縣廳ニ届出ヘシ

第三條 獸醫假免狀ヲ得獸醫開業シタル者ハ其許可ノ區域外ニ至リ病畜ノ治療ヲナスヲ得ス(明治十九年縣令第十二號ヲ以テ更正刪除)

但區域外ノ病畜ト雖トモ牽來リテ治療ヲ請フモノアルトキハ此限リニアラス

第四條 假開業免狀ノ有効期限ハ滿二ケ年以内トス(明治十九年甲第六十五號ヲ以テ追加以下條下ク)

但滿期ノ節ハ免狀返納スヘシ

第五條 前條ノ獸醫開業許可ノ區域ヲ去リ他ニ移住セントスルトキハ其旨縣廳ニ届出免狀返納スヘシ

第六條 家畜傳染病ヲ診斷スルトキハ甲號書式ニ其全治又死亡スルトキハ乙號書式ニ據リ其旨二

日以内ニ縣廳及ヒ所屬警察署又ハ分署ニ届出且最寄獸醫ニ通報スヘシ

但尋常病ト雖モ流行ノ熾ナルノ兆アルトキハ本文ニ準スヘシ

第七條 獸醫ハ牛馬賣買營業ヲ許サス(明治二十年縣令第四號ヲ以テ第七條ヲ刪除以下順次條上ク)

第八條 獸醫假免狀區域内ニ於テ獸醫免狀ヲ有スルモノ新タニ開業スルトキハ免許年限中ト雖モ

假免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ(三十四年縣令第十號ヲ以テ追加)

第九條 此心得第一條第六條第七條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢

以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

同心得第二條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス(明治二十年縣令第九十二號及二十四年同第三十五號ヲ以テ改正刪除)

(書式略ス)

●乙第三號

(明治二十四年二月二十八日)

郡役所 市役所

獸醫又ハ蹄鐵工假免狀下付願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ取調ヘ意見ヲ付シテ具申スヘシ

取調事項

一 營業區域ノ廣袤地勢



一 營業區域内ノ町村名及牛馬ノ各頭數

●縣令第十一號 (明治二十四年二月二十八日)

獸醫又ハ蹄鐵工假免狀ヲ得ントスルモノハ左式ノ願書ニ履歷書ヲ添へ所在郡市役所ヲ經テ縣廳へ差出スヘシ

但明治十八年十月第九十三號布達廢止ス

(獸醫) (蹄鐵工) 假免狀下付願

(用紙美濃紙)

住 所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)  
族 籍

氏

名

生 年 月

右者何郡市町村字何番地ニ於テ(獸醫) (蹄鐵工) 開業仕リ度候間(獸醫) (蹄鐵工) 假免狀御下付被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

明治年月日

右

氏

名

農商務大臣宛

●縣令第十三號

(明治二十四年二月二十八日)

蹄鐵工心得左ノ通り相定ム

蹄鐵工心得

第一條 管内ニ於テ蹄鐵工ヲ開業セントスルモノハ族籍生年月并ニ開業ノ場所ヲ記シ免狀寫相添縣廳へ届出ツヘシ

第二條 開業ノ場所ヲ轉シ又ハ出張所ヲ設ケントスルモノハ其場所ヲ記シ縣廳へ届出ツヘシ出張所ヲ廢シタルトキモ亦同シ

第三條 蹄鐵工假免狀ヲ得開業シタルモノハ其許可ノ區域外ニ至リ裝鐵又ハ剪蹄ヲナスヲ得ス但區域外ノ馬匹ト雖モ率キ來リ施術ヲ請フモノハ此限ニアラス

第四條 蹄鐵工假免狀ノ有効期限ハ滿二ケ年以内トス期滿ノ節ハ免狀返納スヘシ

第五條 蹄鐵工假免狀許可ノ區域ヲ去リ他ニ移轉セントスルトキハ其旨縣廳へ届ケ出テ免狀返納スヘシ

第六條 此心得第一條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

同心得第二條第五條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス(明治二十四年縣令第三十四號ヲ以テ更正刪除)



### 第五章 紙業

◎縣令第二十一號 (明治二十六年三月十六日)

紙業組合規則左ノ通相定ム

#### 紙業組合規則

第一條 此規則中紙業者トアルハ三極楮園ヲ所有シ三極皮三極種苗ヲ賣却スルモノ紙(原料ノ何ダルナ間ハス)又ハ製紙原料ヲ製造スル者及之ヲ仲買又ハ販賣スルモノヲ總稱ス

第二條 紙業者ハ品位ヲ精良ニシ製紙ノ種類ニヨリ寸法枚數ヲ一定ニシ量目ノ制限ヲ定メ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ郡市(數郡聯合ノ區)ノ區畫ニ依リ組合ヲ設置シ其組合ニ加盟スヘシ

但其營業ノ種類ニ依リ組合ニ加入スヘカラサル理由アルモノハ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 三極楮及製紙ニ不正ノ重量ヲ付シ販賣スヘカラス

三極皮三極種苗楮皮楮種苗紙及原料荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及栽培人製造者若クハ取扱人ノ住所姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ販賣スヘシ

第四條 組合ノ名稱ハ靜岡縣下何郡市紙業組合ト稱スヘシ

第五條 組合ハ郡市内便宜ノ地ニ組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ出張所ヲ設クルコトヲ得

第六條 組合委員及取締所議員ハ此規則ノ範圍内ニ於テ規約及豫算ヲ議シ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキモ亦全シ

第七條 組合及取締所ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 二 製造ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法
- 三 製造及販賣上ノ弊害ヲ矯正スル方法
- 四 役員撰擧法及權限
- 五 會議ニ關スル規程
- 六 荷物檢査規程
- 七 職工徒弟ニ關スル規程
- 八 加入者及退去者ニ關スル規程
- 九 違約者處分ノ方法
- 十 經費賦課徵收支出ノ方法



十一 前各項ノ外必要トナス事項

第八條 組合ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第九條 組合ハ其規約ヲ以テ價格貸錢及賣買手數料等ヲ一定シ又ハ取引先ヲ制限スルコトヲ得ス

第十條 組合員ハ組合及取締所ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スヘシ

第十一條 社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシムヘシ

第十二條 組合事務ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ撰定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互撰スヘシ

但組長ヲ撰任シ又ハ改撰シタルトキハ縣知事ノ認可ヲ受ケ委員ヲ撰任又ハ改撰シタルトキハ其都度届出ツヘシ

第十三條 組長ハ委員ト協議シ部内組合ノ取締ヲ爲シ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十四條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十五條 組合員ハ必ス其組合ノ證ヲ携帯スヘシ

第十六條 紙業組合取締所ハ静岡市ニ設クハシ

第十七條 取締所ニハ事務員若干名ヲ置キ取締所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十八條 取締所事務員ハ會議ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選定シ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 取締所會議ノ議員ハ各組合委員ニ於テ組合員中ヨリ選定スヘシ

第二十條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ事務員組合委員タルヲ得ス

一 全業ヲ營ミ三ヶ年ヲ經サルモノ

二 丁年未滿ノモノ

三 瘋癲白痴ノモノ

四 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

五 商業及農工商ヲ妨害スル罪信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ヲ以テ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ滿期後又赦免後三ヶ年ヲ經過セサルモノ

六 公權剝奪若クハ公權停止中ノモノ

七 組合規則ニ背キ又ハ違約處分ヲ受ケ一ヶ年ヲ經過セサルモノ

第二十一條 取締所會議ノ正副議長及議員ノ氏名並ニ會議ノ開閉期日ハ縣知事ニ届出ツヘシ

第二十二條 縣知事ハ取締所會議ノ開閉又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條 事蹟(組合員數産額及ヒ代價等)及經費決算報告ヲ毎年四月縣廳ニ届出ツヘシ

第二十四條 第三條第十條第十五條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス